

教育関係共同利用拠点

知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点

—大学教員のキャリア成長を支える日本版 SoTL の開発

令和元年度 事業報告書

Joint Educational Development Center “Excellence in University Learning and Teaching” Project Report 2019

資料編 (WEB 版)

東北大学高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター
Center for Professional Development (CPD)
Institute for Excellence in Higher Education (IEHE)
Tohoku University

4 資料編

4.1 PD（専門性開発）分野一覧	2
4.2 PD セミナー分野別一覧	3
4.3 PD セミナー参加者アンケート結果	12
4.4 PDPonline（専門性開発プログラム動画配信サイト）一覧	41
4.5 プログラム修了者数（2010～2019 年度）	44




4.1 PD（専門性開発）分野一覧


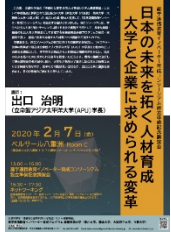


ゾーン	カテゴリー	エレメント
高等教育のリテラシー 形成関連 コード：L (Literacy)	高等教育論 L-01	高等教育の歴史，大学の理念，大学制度・組織，入試制度，関連法制，管理運営，国内外の動向など広く高等教育に関する知識・教養に関するもの
	大学教員論 L-02	大学教員の役割・責務，倫理，キャリア形成など大学教員に関する知識
	教育内容・カリキュラム論 L-03	教養教育論，カリキュラム論など教授する教育内容の教育論に関するもの
	教授技術論 L-04	授業の設計，シラバスの書き方，学習と教授の心理学，教育測定の原理と方法，プロジェクトベースラーニングの進め方，論文・レポート執筆の指導など教授技術に関するもの
専門教育での 指導力形成関連 (各専門分野) コード：S (Specialty)	学習指導法 S-01	専門分野の学習方法の指導法
	実験指導法 S-02	実験の計画，準備，実施，結果の整理，施設・設備・機器類の使用，危険の防止，倫理的ガイドライン等についての指導法
	研究指導法 S-03	研究テーマの設定方法，関連文献の検索方法，プレゼンテーションの方法，論文のまとめ方，研究費の申請方法等についての指導法
	実務家教員 S-04	産学連携教育，リカレント教育
学生支援力 形成関連 コード：W (Health & Welfare)	学生論 W-01	現代学生論，大学生の発達と学習，学生の生活問題，学生理解とカウンセリングなど学生理解と指導に関するもの
	学生相談 W-02	大学コミュニティへの適応支援の技術，カウンセリングの基礎，コンサルテーションの基礎，グループワークの基礎，人間関係調整法等の指導
	キャリア教育 W-03	進路選択の支援方法，キャリア形成の支援方法，経済的自立の指導
	健康教育 W-04	健康な生活習慣形成の指導法，趣味や余暇活用の指導法
マネジメント力 形成関連 コード：M (Management)	組織運営論 M-01	大学の管理運営，大学のリーダーシップ論，危機管理
	大学人材開発論 M-02	FD/SD 論，教職員開発プログラム作成，キャリア・ステージ論
	教育マネジメント M-03	質保証，入口管理，カリキュラム・マネジメント，出口管理

4.2 PD セミナー分野別一覧

*参加者数：上段合計数，中段（学内者数），下段（学外者数）

No.	セミナー名	参加者数*	備考
高等教育のリテラシー形成関連 コード：L (Literacy)			
1	<p>第30回東北大学高等教育フォーラム「入試制度が変わるとき」 2019年5月15日（水）13:00～17:00 基調講演1：共通第1次学力試験の導入とその前後 ー何が期待され何が危惧されたのかー 大谷 奨（筑波大学 教授） 基調講演2：大学入試センター試験の光と影 ー「平成」は「ポスト昭和」を超えたのか？ー 倉元 直樹（東北大学 教授） 現状報告1：地方公立高校における整理と構え ー入試制度変更への対応の成果と課題ー 渡辺 豊隆（鹿児島県立大島高等学校 教諭） 現状報告2：入試制度の変更と現場で思うこと ー今までとこれからを考えるー 廣瀬 辰平（山形県立米沢興譲館高等学校 教諭） 現状報告3：高等学校の現状と、今、大学に求めること 宮本 久也（東京都立八王子東高等学校 校長）</p>	370 (32) (338)	
2	<p>大学の授業を設計する：授業デザインとシラバス作成 2019年8月27日（火）13:30～17:00 講師：串本 剛（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）</p>	31 (16) (15)	
3	<p>学生の学びを支える学習支援 2019年9月6日（金）15:30～17:00 講師：谷川 裕稔（四国大学短期大学部 教授）</p>	53 (15) (38)	
4	<p>授業づくり：準備と運営 2019年9月18日（水）13:30～15:30 講師：邑本 俊亮（東北大学 災害科学国際研究所 教授）</p>	40 (20) (20)	
5	<p>日本の高等教育政策 2019年12月6日（金）13:00～15:00 講師：羽田 貴史（広島大学・東北大学 名誉教授）</p>	57 (18) (39)	

No.	セミナー名	参加者数*	備考
専門教育での指導力形成関連（各専門分野） コード：S（Speciality）			
6	コーチング技能を活用した学生指導 2019年11月21日（木）13:30～16:40 講師：出江 紳一（東北大学 医工学研究科 教授）、 倉重 知也（株式会社イグニタス 代表取締役）	42 (22) (20)	
7	国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM（科学・技術・工学・数学）教育—DBER（分野別教育方法研究）による授業変革と政策動向—」 第1部 エビデンスに基づく授業変革：“DBER”とは何か 2020年1月14日（火）13:30～15:45 講演1：DBERに基づくFDによる組織的なSTEM教育変革 キンバリー・タナー（サンフランシスコ州立大学 生物学科 教授、 同大学 科学教育連携・評価ラボ所長） 講演2：DBERに基づく教育評価・改善—山形大学の事例— 安田 淳一郎（山形大学 准教授）	39 (8) (31)	
8	国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM（科学・技術・工学・数学）教育—DBER（分野別教育方法研究）による授業変革と政策動向—」 第1部 エビデンスに基づく授業変革：“DBER”とは何か 2020年1月14日（火）16:00～17:30 ワークショップ：授業方法の振り返りと授業改善の探究：5Eサイクルモデル授業法に照らして キンバリー・タナー（サンフランシスコ州立大学 生物学科 教授、同大学科学教育連携・評価ラボ所長）	26 (8) (18)	
9	国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM（科学・技術・工学・数学）教育—DBER（分野別教育方法研究）による授業変革と政策動向—」 第2部 産学官連携によるSTEM教育推進：国際動向と日本の課題 2020年1月15日（水）13:30～17:30 講演1：STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際STEMプログラム 山田 礼子（同志社大学 教授） 講演2：中国トップ大学の学士課程におけるSTEM教育の取組と学際教育の台頭 孟 衛青（広州大学 教授、九州大学 訪問研究員） 講演3：STEM から STEAM へ、そしてその先へ Marcin Schroeder（東北大学 特任教授、元国際教養大学 能動的学修・評価センター長） 指定討論：小笠原 正明（北海道大学 名誉教授）	39 (7) (32)	
10	模擬授業を通して学ぶSTEM（科学・技術・工学・数学）教育における修学効果の高い学生主体の指導方法 2020年1月17日（金）13:30～16:00 講師：キンバリー・タナー（サンフランシスコ州立大学 生物学科 教授、 同大学 科学教育連携・評価ラボ所長）	29 (25) (4)	

No.	セミナー名	参加者数*	備考
11	J-CLIL Tohoku Symposium Exploring the Potential of CLIL Within the Japanese Context 2020年1月25日(土) 13:00~17:00 講師: Barry Kavanagh (東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授)、 岩野 雅子 (山口県立大学 教授)、Mark Swanson (同学 講師)、 Graham MacKenzie (上智大学 准教授)、 小島 さつき (宮城大学 准教授)	30 (15) (15)	
12	産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム設立準備記念講演会 「日本の未来を拓く人材育成：大学と企業に求められる変革」 2020年2月7日(金) 13:00~15:00 講師: 出口 治明 (立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長)	128 (13) (115)	
13	ウェブイベント「大学改革を担う実務家教員フェア」 産学連携教育シンポジウム 産業界と大学が共に創る新しい大学教育 —産学連携教育の国際動向と日本の未来— 2020年3月27日(金) ~4月27日(月) 講師: 吉本 圭一 (九州大学 第三段階教育研究センター長、主幹教授)、 クリス・ラッド (ジェームズ・クック大学 シンガポール校 副学長・キャンパス長)、 乾 喜一郎 (リクルート進学総研 主任研究員)	226 (11) (215)	
—大学改革を担う実務家教員フェア— 実務家教員の活躍事例の紹介 講師: 武藤 敦子 (名古屋工業大学 工学部 准教授)、 牧野 丹奈子 (桃山学院大学 学長)			
実務家教員に関する経験談の共有 講師: 岩城 奈津 (共立女子大学 ビジネス学部 専任講師)、 廣瀬 貴博 (共立女子大学 総合企画室 総括室長)、 泉谷 道子 (愛媛大学 特定准教授)、 勝又 あずさ (関西学院大学 准教授)			
学生支援力形成関連 コード: W (Health&Welfare)			
14	SDP シリーズ第2回 (2019年度) 多様な学生の理解と支援: 留学生とLGBT学生に注目して 2019年12月12日(木) 13:30~16:00 講師: 河野 禎之 (筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 助教)、 小島 奈々恵 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師)	35 (26) (9)	



No.	セミナー名	参加者数*	備考
マネジメント力形成関連 コード：M (Management)			
15	<p>SDP シリーズ第 1 回 (2019 年度) 私立大学の教育改革を支える「中堅リーダー」の育成と活用－グッドプラクティスから考える－ 2019 年 7 月 6 日 (土) 13:00～16:00</p> <p>講演 1：共通教育カリキュラムの改革 高良 要多 (桃山学院大学 大学統括部教務課 専任職員)</p> <p>講演 2：教学改革と IR 機能の形成 山本 幸一 (明治大学 教学企画部教学企画事務室)</p> <p>講演 3：中長期計画の実質化と戦略経営 長山 琢磨 (学校法人東北学院 法人事務局庶務部庶務課 係長)</p> <p>パネリスト：教職一体ガバナンスが育む中堅リーダー～共愛学園前橋国際大学の事例から～ 大森 昭生 (共愛学園前橋国際大学 学長)</p>	49 (6) (43)	
16	<p>エンrollment・マネジメントをどのように捉え、どのように進めるか 2019 年 9 月 6 日 (金) 13:30～15:00</p> <p>講師：寫田 敏行 (茨城大学 准教授)</p>	55 (14) (41)	
17	<p>IDE 大学セミナー 学修の成果・時間と単位制度から考える学士課程教育の再設計 2019 年 11 月 18 日 (月) 13:00～17:25</p> <p>講演 (総論 1)：大学は誰に何を説明するのかー共通性と多様性の両立 深堀 聡子 (九州大学 教育改革推進本部 教授)</p> <p>講演 (事例 1)：岡山大学における「60 分授業・4 学期制」について 佐々木 健二 (岡山大学 全学教育・学生支援機構副機構長 教授 (特任))</p> <p>講演 (事例 2)：玉川大学の教育改革とキャップ制 菊池 重雄 (玉川大学 名誉教授・特任教授)</p> <p>講演 (事例 3)：学習の有機的なつながりをつけるユニットプログラムとその実践 金井 徳兼 (神奈川工科大学創造工学部 教授)</p> <p>講演 (総論 2)：学修時間と単位制度を再検討する：日米の議論から 森 利枝 (大学改革支援・学位授与機構 教授)</p>	97 (17) (80)	
18	<p>グローバル人材育成を考える－大学教職員に求められる意識と行動－ 2019 年 11 月 28 日 (木) 13:00～16:00</p> <p>講師：横山 匡 (株式会社アゴス・ジャパン 代表取締役)</p>	25 (18) (7)	
正午 PD 会			
19	<p>第 69 回正午 PD 会 「"Chemistry"の場を探る」 2019 年 4 月 17 日 (水) 12:10～12:50</p> <p>講師：滝澤 博胤 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構長、東北大学理事・副学長 (教育・学生支援担当)、大学院工学研究科 応用化学専攻 教授)</p>	34 (34) (0)	

No.	セミナー名	参加者数*	備考
20	第70回正午PD会 「生成文法理論研究と言語教育への応用可能性」 2019年5月8日(水) 12:10~12:50 講師：三上 傑 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター 講師)	19 (19) (0)	
21	第71回正午PD会 「初等物理授業における Wiley Plus の導入と FCI, BEMA による概念理解度調査結果」 2019年5月21日(火) 12:10~12:50 講師：小池 武志 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 准教授)	28 (28) (0)	
22	第72回正午PD会 「スペインの高等教育：欧州高等教育圏におけるその特徴、組織、課題」 2019年5月29日(水) 12:10~12:50 講師：Gabriel Hervas Nicolas (バルセロナ大学 教授学習教育組織学部、高度教養教育・学生支援機構 客員研究員)	17 (17) (0)	
23	第73回正午PD会 「日本の社会教育制度の誕生と変容」 2019年6月18日(火) 12:10~12:50 講師：佐藤 智子 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター 准教授)	14 (14) (0)	
24	第74回正午PD会 「インターンシップの現状と大学教育への活用」 2019年7月3日(水) 12:10~12:50 講師：猪股 歳之 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター 准教授)、 門間 由記子 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター 特任准教授)	22 (22) (0)	
25	第75回正午PD会 「東北大学における学生相談の現状」 2019年7月22日(月) 12:10~12:50 講師：中岡 千幸 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学生相談・特別支援センター 講師)	15 (15) (0)	
26	第76回正午PD会 「大学におけるハラスメント防止と対策について」 2019年10月24日(木) 12:10~12:50 講師：伊藤 千裕 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 保健管理センター 教授)	18 (18) (0)	

No.	セミナー名	参加者数*	備考
27	第 77 回正午 PD 会 「なぜ IR なのか？—IR をめぐる政策動向と東北大学の課題—」 2019 年 11 月 6 日 (水) 12:10~12:50 講師：杉本 和弘 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教育評価分析センター 教授)、 大野 林太郎 (東北大学 総長・プロボスト室 特任講師)	23 (23) (0)	
28	第 78 回正午 PD 会 「国公立大学における大学入試センター試験の活用状況と選抜機能およびそれらを踏まえた新大学入学共通テストの在り方について」 2019 年 12 月 24 日 (火) 12:10~12:50 講師：石上 正敏 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 入試センター 特任教授)	22 (22) (0)	
29	第 79 回正午 PD 会 「学生による海外留学支援及び留学促進活動 ~東北大学グローバルキャンパスサポーターの取組み~」 2020 年 1 月 24 日 (金) 12:10~12:50 講師：坂本 友香 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 特任准教授)	15 (15) (0)	
30	第 80 回正午 PD 会 「インストラクショナルデザインに基づく BYOD 環境の活用に向けて」 2020 年 1 月 28 日 (火) 12:10~12:50 講師：渡邊 文枝 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター 助教)	19 (19) (0)	
健康科学セミナー			
31	健康科学セミナー第 1 回「大学生の保健管理に関する話題 2019」 2019 年 10 月 15 日 (火) 講師：木内 喜孝 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授)	12 (7) (5)	
32	健康科学セミナー第 2 回「不安障害について」 2019 年 11 月 19 日 (火) 講師：伊藤 千裕 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授)	14 (9) (5)	
33	健康科学セミナー第 3 回「2019 年の高血圧」 2019 年 12 月 19 日 (木) 講師：小川 晋 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)	13 (11) (2)	
34	健康科学セミナー第 4 回「頭蓋顎顔面外科と矯正治療」 2020 年 1 月 21 日 (火) 講師：北 浩樹 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 助教)	11 (9) (2)	
35	健康科学セミナー第 5 回「インフルエンザに感染すると心筋梗塞をおこす？」 2020 年 2 月 18 日 (火) 講師：佐藤 公雄 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)	16 (12) (4)	

No.	セミナー名	参加者数*	備考
その他			
36	<p>平成 31 年度 東北大学新任教員研修 2019 年 4 月 12 日 (金) 13:30~17:00 講義：東北大学の教育と学生 滝澤 博胤 (東北大学 理事・副学長 (教育・学生支援支援担当)) 講義：教育研究における学生との関りとハラスメント 池田 忠義 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授) 講義：社会の中の大学教員 ～大学を取り巻く環境を直視し、教育と運営を考える～ 大森 不二雄 (同機構 教授) 講義：本学における研究の推進と責任ある研究活動 早坂 忠裕 (同学 理事・副学長 (研究担当)) 講義：男女共同参画関係について 大隅 典子 (同学 副学長 (広報・共同参画担当)) 講話：創造と変革を先導する大学 世界から尊敬される三十傑大学を目指して 大野 英男 (同学 総長)</p>	232	
37	<p>Professional Development Seminar on TESOL : 国際標準英語教授法セミナー 2019 年 6 月 1 日 (土) 12:30~17:30 講師：Dr. Elizaveta Tarasova (TESOL Co-ordinator/Lecturer : IPU New Zealand, Tertiary Institute)</p>	31	
38	<p>Black-White Interracial Marriage in the United States: A History Through Three Films 2019 年 6 月 14 日 (金) 14:40~16:10 講師：Renee Romano (Robert S. Danforth Professor of History, Oberlin College, US)</p>	110	
39	<p>The Second J-CLIL TOHOKU Chapter Conference 第 2 回 J-CLIL 東北支部大会 2019 年 6 月 15 日 (土) 9:50~17:00 講師：村野井 仁 (東北学院大学)、磐崎 弘貞 (筑波大学)</p>	52	
40	<p>大学教職員を対象とした発達障害学生への就労支援に関する研修会 2019 年 8 月 26 日 (月) 13:30~15:30 講師：大野 順平 (株式会社 Kaien)</p>	55	
41	<p>2019 年度 外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクト ワークショップ「外国語担当教員の成長を促す授業参観」 2019 年 9 月 20 日 (金) 14:00~16:00 講師：藤原 三枝子 (甲南大学 国際言語文化センター 教授)</p>	23	

No.	セミナー名	参加者数*	備考
42	ATEM 東日本支部第一回東北特別研究会 The 1st Special Tohoku Area Study Session of ATEM (The Association of Teaching English through Multimedia) 2019年9月29日(日) 10:00~15:30 講師: 深井 陽介 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)、 ベルトラン・ソゼド (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師)、 張 立波 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師)、 関口 美緒 (筑波大学 メリーランド大学)、 吉牟田 聡美 (活水女子大学)、Eric Shewack (東北大学)、 Sachiko NAKAMURA (中央学院大学)、 ライアン・スプリング (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)、 田淵 龍二 (ミント音声教育研究所)	29	
43	学際連続セミナー2019「ことばのデザイン ——意識してことばを紡ぐ」 2019年10月25日(金) 16:20~19:30 講師: 中島 裕介 (歌人)	15	
44	【HEIJ】第4回大学教育イノベーションフォーラム 「世界で一番とんがった大学から、大学教育の当たり前を問い直す —ミネルバ大学が示唆するもの— 2019年10月31日(木) 14:00~17:50 講演1: ミネルバ大学が指し示す高等教育の未来 山本 秀樹 (AMS 合同会社代表、Dream Project School Co-Founder & CEO、元ミネルバ大学日本連絡事務所代表) 講演2: 大学教育と高大接続の課題~ミネルバ大学からの示唆をも踏まえ~ 南風原 朝和 (広尾学園中学校・高等学校長、環太平洋大学特命教授、 東京大学名誉教授、元東京大学理事・副学長)	104 (6) (98)	
45	学際連続セミナー2019 『イラスト1枚で伝える技法「インフォグラフィックス」を学ぶ』 2019年11月12日(火) 16:20~19:30 講師: 木村 博之 (チューブグラフィックス 代表取締役)	40	
46	東北イノベーション人材育成プログラム シンポジウム 「留学生就職の最前線—留学生が組織でイキイキと働くために—」 2020年2月7日(金) 13:00~16:00 基調講演: 外国人材の活力を自社の発展につなげるには 小山 健太 (東京経済大学 コミュニケーション学部 准教授)	51	

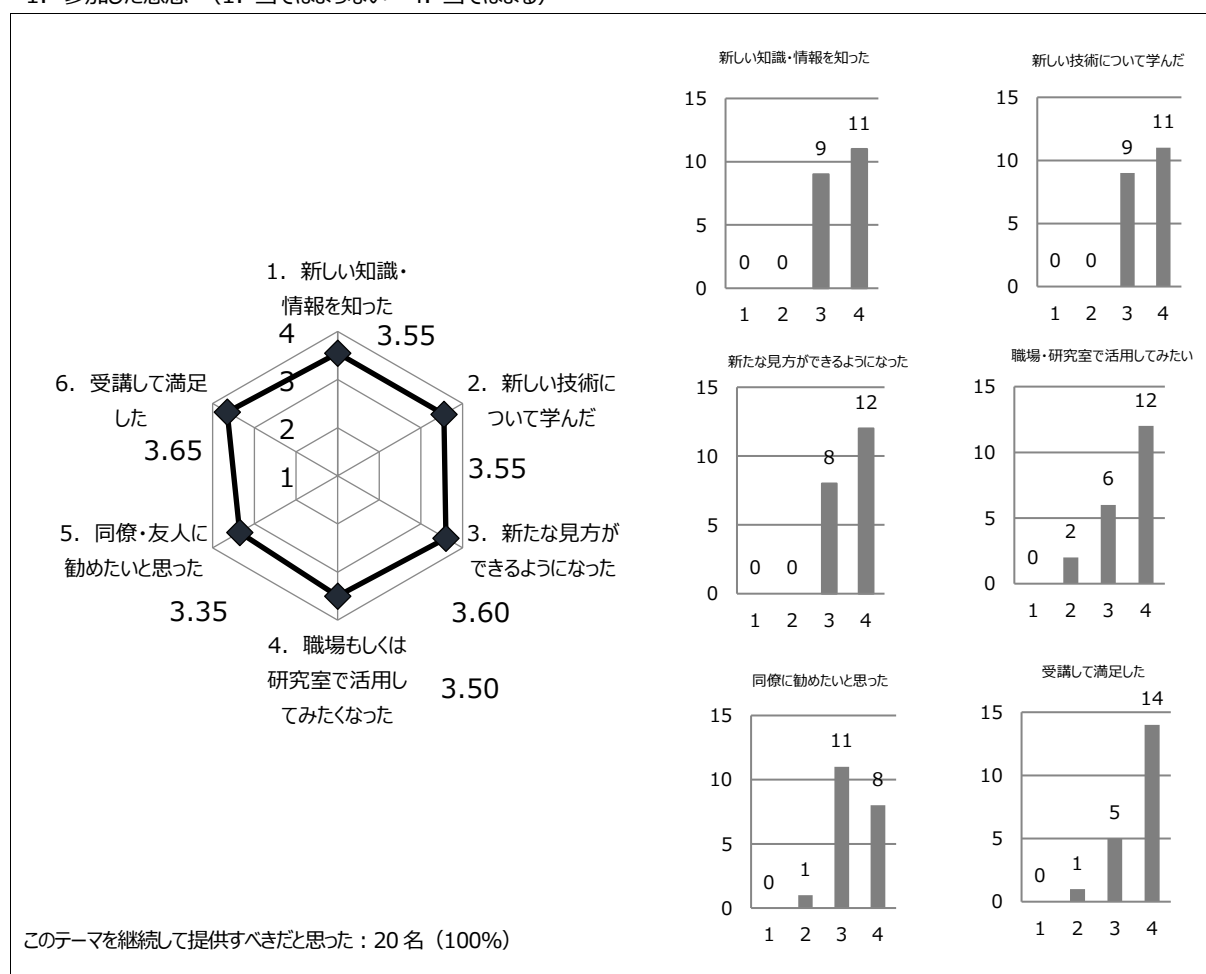
No.	セミナー名	参加者数*	備考
47	ドイツ語教育ワークショップ「ドイツ語の学習基本語彙と文法」 2020年2月7日(金) 14:00~16:30 講師：藤縄 康弘(東京外国語大学)、大菌 正彦(静岡大学)	24	
48	大学教職員を対象とした障害学生支援に関する講演会 「私は車椅子に乗っている、ただそれだけのこと」 2020年2月17日(月) 10:30~12:00 講師：中村 珍晴(神戸学院大学 心理学部 講師)	34	

2019年度PDプログラム参加者総数 延べ2,483名

4.3 PDセミナー参加者アンケート結果

高等教育のリテラシー形成関連 (コード:L)	
2019年 8月27日(火) 13:30-17:00	大学の授業を設計する：授業デザインとシラバス作成
	講師 串本 剛 (東北大学 准教授)
回収率 =87.0(20/23)	
回答者属性(N=20)	
【職階】 教授(2)／准教授(3)／講師 (2)／助教・助手(6)／管理職教員<学長～学部長>(0)／博士課程(1)／職員<部長・課長以上>(1)／職員<係長・主任・一般職員等>(1)／その他(2)／無回答(2)	
【性別】 女性(7)／男性(11)／無回答(2) 【学内外】 東北大学(6)／他大学等(14)	

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうだったこと

- ・ ルーブリック評価法 (課題に対して)
- ・ 授業外学習の考え方、バランスの考え方→数字で見えるので修正しやすい
- ・ 学修時間から教育内容、評価方法を考えるという発想。逆向き授業設計
- ・ 評価基準の納得性、DP との繋がりの中で身に着けるべき能力とのからみの中で作成する
- ・ 評価の仕方について。自分の評価を修正しようと思う。でも、なかなか大変そう
- ・ 立場的に FD をしなければならぬため、自分の授業だけでなくほかの先生方にも考えていただきたい内容でした
- ・ 時間配分から授業設計をしていなかったため新しい視点でした
- ・ 技術的な知識・方法論
- ・ 授業評価を意識して内容を考えると思っていなかったため、その組み立てを学べたことは貴重な機会となった
- ・ シラバス (科目) の設計をどのように考えるか。頭を使って悩んだこと
- ・ 現在のシラバス全体の見直し。自己学習時間が少なかったことが分かった
- ・ 学修時間の配分から成績の配点を見直すという点
- ・ ルーブリック作成のワークシート
- ・ シラバス作成の枠組み・考え方。評価などの際に何を考えなければならぬかが整理できたこと

- ・ 逆向き設計でシラバスをデザインする点の留意点とその背景
- ・ 評価と目標。内容の関連付けの仕方
- ・ 学生が学修した時間をもとに、成績評価方法を考えるという点

3. わかりにくいと思ったこと

- ・ ルーブリック評価法（授業全体の評価）、出席率を含めた評価
- ・ 大学設置基準で決まった事など、知らなかったなので。今回学んだが、時間について（例：45時間）分かりにくかった
- ・ 応用するので難しいところもありました
- ・ ワークショップについて良い参考事例が欲しい
- ・ 結局、授業外学習を何時間とれば良いのか？ 早く現在の状況にあった指針を示してもらいたい
- ・ 時間配分 1 単位 45 時間の本音と建前のこと
- ・ 教育の在り方における本音と建前の解釈
- ・ 特にありません
- ・ 学習時間の概念と考え方
- ・ やはり、実践してみないとわからないと思った

4. セミナーについての意見・感想

- ・ 非常に勉強になりました。ありがとうございました
- ・ 継続してセミナーを受けたいと思います。そうすれば、理解が深まると思います。よろしく願います
- ・ 丁寧に教えていただいてありがとうございました
- ・ 授業について理想と現実をどのようにすり合わせるか、セミナーを受けても難しいと感じた
- ・ 先生の授業の内容がとてもわかりやすく、シラバスの目的や、前もって資料掲示があるので、どんなことを学ぶのか想起しやすいので見通しがたつのがよかった
- ・ グループワークとディスカッションの時間が足りなかったなので、セミナーの時間がもう少し長くてもよいのではないかと思います
- ・ 今回は、予習をしすぎて少し暇になってしまいました

2019年 9月6日(金) 15:30-17:00	学生の学びを支える学習支援(ワークショップ)	
	講師	谷川 裕稔(四国大学 短期大学部 教授)

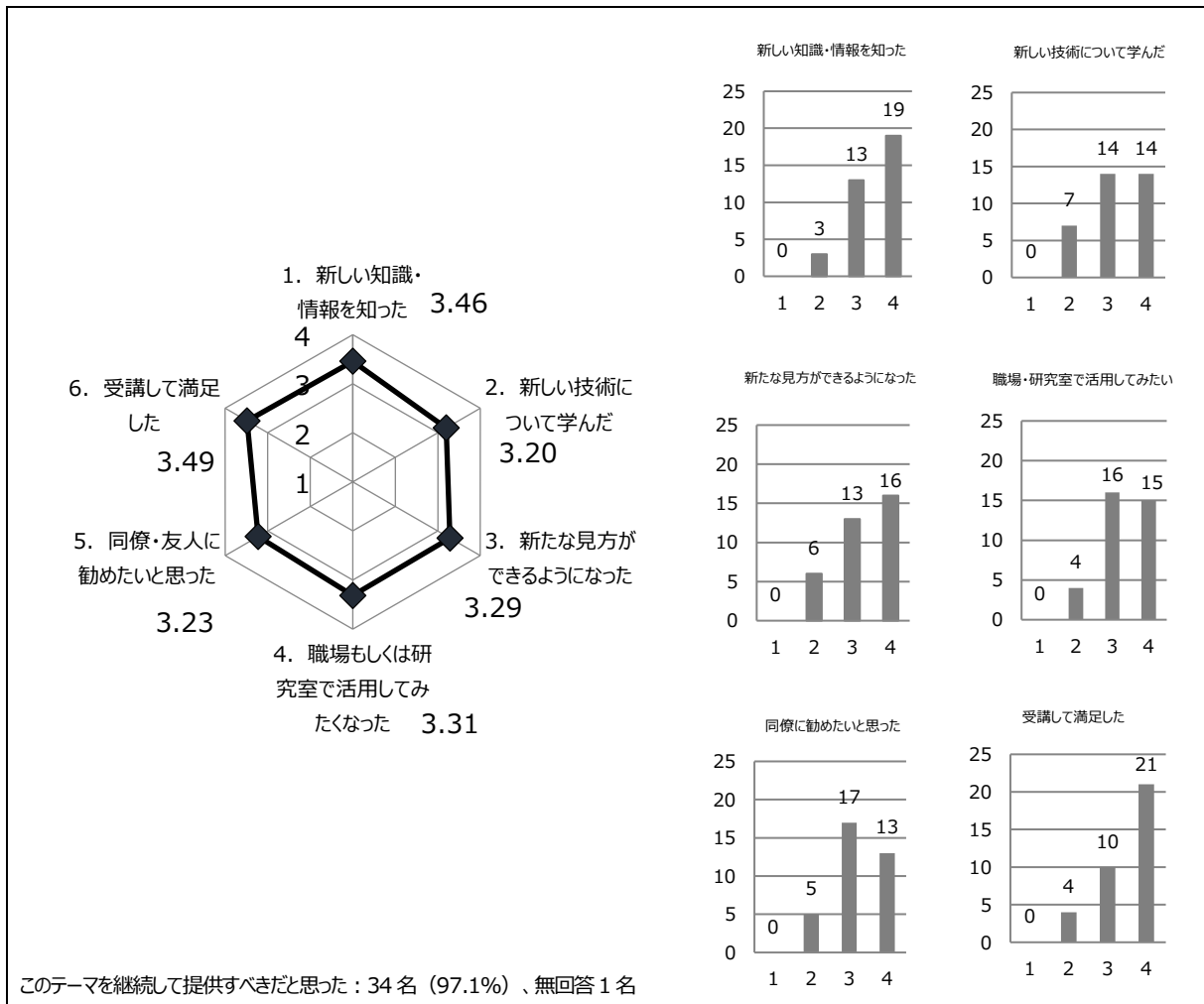
回収率 = 89.7% (35/39)

回答者属性(N=35)

【職階】 教授(1)/准教授(5)/講師(2)/助教・助手(2)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(2)/職員<係長・主任・一般職員等>(21)/その他(0)/無回答(2)

【性別】 女性(12)/男性(21)/無回答(2) 【学内外】 東北大学(6)/他大学等(27) /無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・大学が違っていても類似の課題をかかえていることがわかりました。
- ・U.S との比較による日本における課題説明は大変参考になりました。
- ・米国モデルも含めて学習支援について知ることができました。
- ・他大学での問題
- ・事務職員の方々が多様なスキルをお持ちだということを知りました。勤務校の職員の方々と今後さらに連携して行きたいとおもいました。役に立つご講義をありがとうございました。
- ・ワークショップで考えたこと(話し合い)、はなしたこと
- ・アメリカの大学はどれも予算と結びついた効率的なものであり、日本の形を強制するのとは反対であること。
- ・ワークショップでの洗い出し
- ・workshop の必要性を再確認
- ・大学の規模、設置法人によって多様な課題があるが、共通した課題も多い。
- ・ラーニングセンターの利用ピアサポート
- ・今回のワークショップを学内で試してみたい。
- ・入学前教育などアメリカの状況について知れて、日本にも導入すべきことが多くあるように感じた。

- ・ワークショップの中で各大学が似たような課題を抱えていることが分かったこと。またそれがなかなか解決できない現実があることが分かったこと
- ・Student Success という考え方
- ・アメリカの取組について学べたこと
- ・アメリカの学習支援について、日本の大学では初年次教育のみに注力されている風潮があるが、Sophomore 等1年生だけではなく、一人ひとりの支援に目を向けていくことが大切だと思った。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・学位取得の定義が目的なら、日本の大学はすでにできているのではないかな？
- ・関西の方のギャグの笑い所
- ・高度な内容で全体的にのみこめなかった
- ・具体的な学習支援
- ・ワークショップの進め方
- ・PPTの内容が少しわかりにくい。ワークのディレクションがわかりにくい
- ・学習支援も実際にどう構築し、実践していくか

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・レメディアルの定義が変化したことは新知識でした！
- ・話し合い、グループワークの時間が十分とれていてよかった。
- ・ワークショップ形式でいろいろなお意見をうかがえて勉強になりました。
- ・ありがとうございました。参考になりました
- ・講師の方にはタイムマネジメントを意識して頂きたい。
- ・もう少しセミナーがあった方がよかった
- ・ほとんどの大学で同じような問題をかかえているので、その問題について情報共有・議論する時間をもっとあった方がよい。

2019年 9月18日(水) 13:30-15:30	授業づくり：準備と運営	
	講師	邑本 俊亮(東北大学 災害科学国際研究所 教授)

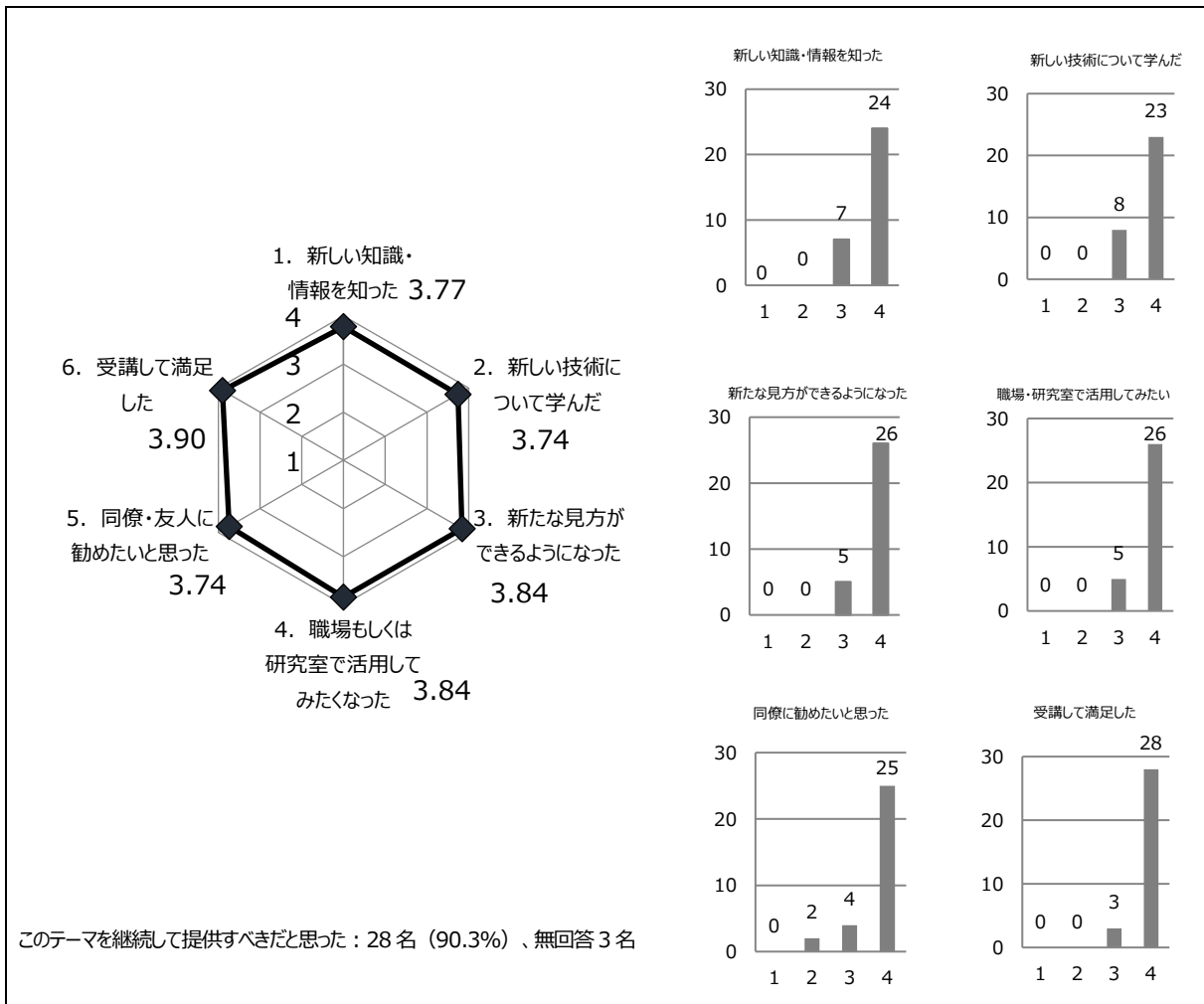
回収率 =91.2% (31/34)

回答者属性(N=31)

【職階】教授(2)/准教授(4)/講師 (3)/助教・助手(14)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)
/職員<係長・主任・一般職員等>(2)/その他(5)/無回答(1)

【性別】女性(8)/男性(20)/無回答(3) 【学内外】東北大学(11)/他大学等(15) /無回答(5)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・授業ペーパーの使い方
- ・授業をどう構成するのか役に立った
- ・学生の意欲を引き出すということ
- ・アクティブラーニングについて、事例をあげて説明されたのでわかりやすかった。メンタルモデルという言葉を知った。学生側の理解の仕組みがよく理解できた
- ・1コマの構造化のパターンのバリエーション。レクチャー、グループワーク、小テスト、クリッカーの組み合わせなど
- ・絵の使い方。「理解と支援する方法」、「オーガナイザー」
- ・今年の4月から教員として働かせていただいています。授業内容を模索しながら行っているのですが、現在悩んでいることが今回の講義で学ぶことができました
- ・心理学がもとになっているので、知識・情報量だけではないことで十分に伝わると感じました
- ・既有知識との関連付けについてです。今後、日々の授業で小道具などを使ってもっと工夫できると私も思いました。授業評価の抜粋の分析は参考になりました
- ・自分で書くことの重要性の再確認！ 認知に関わる「既有知識の活性化」ができたところ
- ・オーガナイザーで整理させる
- ・なるべく取り入れたい内容ばかりでした

- ・1.伝わらない理由。2.理解の認知プロセス（グループ編成の方法）。認知心理学—教育心理学の知見に基づいた内容が大変参考になりました
- ・オーガナイザー、意欲を維持させる、心理的アプローチ、エンドロール。工夫することの大事さがよくわかりました
- ・「理解の認知プロセス」の理解
- ・授業づくりというテーマとしてすべてが参考になりました。学生の目線に立って学習意欲を向上させるために日々考え、研究していく必要を改めて感じました。さっそく現場で取り入れていきたいと思います
- ・アクティブラーニングの方法は多様であり、良いタイミングで短い動画を入れたり、BGM など活用したら関心を持ってもらえそうと思った。3つの「そう」を取り入れる！
- ・理解の認知プロセスについてと、なぜ、構成で図例を使うのかということがわかった
- ・科学的根拠に基づいたテクニック
- ・全体的に実践的なアドバイスが多く、参考になった
- ・具体と抽象の往復を、自分で応用できるところまで徹底的にやるということ
- ・1-3.理解を支援する方法について
- ・授業の運営の仕方
- ・90分1コマ単位での授業の組み立て方
- ・とてもわかりやすい講義でした
- ・授業におけるプレゼンテーションの仕方（小道具を使う。実際に見せるなど）について、自分の授業でも応用したいと思った。最後のまとめも、授業の中身の振り返りに役立った。何を学んだかイメージできた
- ・理論的なエビデンスを踏まえ、体験に基づく講義だったので、手法の根拠も明確となり、まさに抽象的⇔具体的に理解することができた
- ・学生への興味付けの方法について。自身の気分を整えて授業に臨むということ
- ・全体としてわかりやすかったです

3. わかりにくいと思ったこと

- ・アクティブラーニングは方法ではなく理念だと思っているのですが、理念としてのアクティブラーニングについてのご意見がなかったこと
- ・理解の認知プロセスについて、もう少し課題例が欲しかったです
- ・具体例のレベル
- ・アクティブラーニングの自身の授業への落とし込み
- ・わかりにくいということはありません。要望としては実際見せている動画を見てみたかったです（笑）
- ・わかりにくい、難しそうということはありません。先生のお話が難しくなさそうと思わせてくれるような内容に考えられているのだろうとは思いましたが
- ・既知情報の把握の仕方
- ・タイミングやセンス（視聴覚教材選択の）
- ・アクティブラーニングを行う際に学生のグループ化を行うための把握法
- ・アクティブラーニングの具体的な実践例について。学生の特性の判断。学生の反応の見方。メッセージはどのようなことを入れるのか？ 個人的でも良いのか？

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・貴重な情報提供が得られたので有益なセミナーでした
- ・外国語言語の授業に関するやり方
- ・企画立案、運営に感謝いたします
- ・テーマが小項目すぎないと幸いです
- ・大変、ためになりました
- ・とても参考になるセミナーでした
- ・区切りでの効果音、エンドロール風のまとめにびっくりしました
- ・いつも満足です。特に今回は、大満足です
- ・自分自身が学生として学ぶ際にも、良い心構えだと思った

2019年 12月6日(木) 13:00-15:00	日本の高等教育政策	
	講師	羽田 貴史 (広島大学・東北大学 名誉教授)

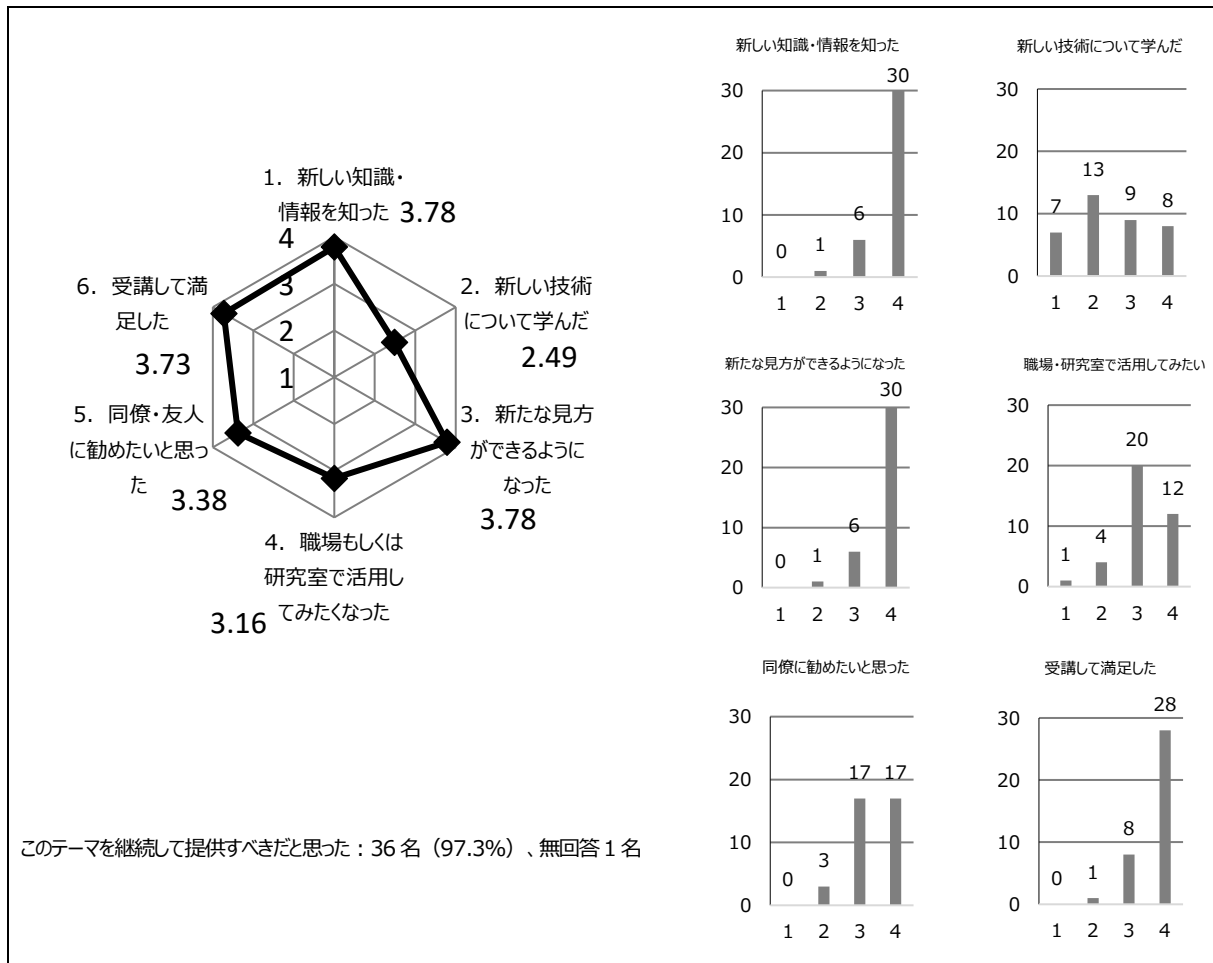
回収率 = 75.51% (37/49)

回答者属性(N=37)

【職階】 教授(3)/准教授(7)/講師 (1)/助教・助手(1)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(8)/職員<係長・主任・一般職員等>(11)/その他(1)/無回答(5)

【性別】 女性(8)/男性(24)/無回答(5) 【学内外】 東北大学(6)/他大学等(24) /無回答(7)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・内閣府の権限強化への見方
- ・内閣府（および内閣府を介した経産省）の高等教育支配の構造がよく判った。
- ・「何をなすべきか」をはじめ、KPIの問題点など政策のあり方、内閣府など政策プロセスについて様々な知識、考え方を得られた点。
- ・全体としてとても勉強になりましたし、刺激になりました。
- ・アクティブラーニングは万人によい手法ではない。グローバル人材とは？に対する新たな視点
- ・高等教育関係者は何をすべきか？物の見方、考え方
- ・高等教育政策を概観する視点
- ・文科省政策の形成過程の問題点を体系的に構造化された内容で非常に参考になりました。
- ・政策決定、行政の流れ、考え方
- ・高等教育政策の流れを再確認することができた。
- ・「高等教育研究」という学術的視点の存在。これまで「業務」として関わった内容が学術的な対象となることが目からウロコだった。
- ・教育政策と国策の関係、特に今後の研究テーマ考案
- ・政策等の動向について
- ・時系列に政策がまとまっていてよく分かった

- ・純粋な研究と実際の方策についての考え方
- ・資料 P6 の 8 は役立ちそうです。
- ・特になし
- ・エビデンスのない発言が多くあることを知った。それを自分で批判的視点から分析し、理解するためには知識が必要だと感じた。
- ・認証評価を政府によって大学コントロールとして再整備のくだり、背景について分担管理を克服する総合調整の取組。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・羽田先生個人の「高等教育がもつ価値」にどう「公共性」をもたせるのかの考えを聞きたいと思った。とくに文系。「単純思考しない」「真理」「テーゼそのものを疑う」などでよいのか。
- ・PPT とレジュメの内容が見出しも異なるところが多く、話を追うときにすこし戸惑いました。
- ・人名が多く、知識が浅い自分にとっては理解が難しい部分があった。
- ・国立大学の動向の知識不足のため少しわかりにくい部分がありました。
- ・全体的に要旨が見えない、壮大な内輪ネタの様に感じた。
- ・固有名詞（名前）が多く出てきたが、知識がないためそれが何を意味するのかよくわからなかった。知識がない聴衆にとっては理解が難しい。

4. セミナーについての意見・感想

- ・今後も様々なテーマで開催して頂きたい。
- ・羽田先生、きょうも大変勉強になりました。有難うございました。
- ・ユーモアを交えながらご講演いただき、批判的視点等も解説いただきとても聞きやすかったです。
- ・東北大学での取り組みは素晴らしいと思うが、仙台まで来ないと受講できないのでオンラインでも受講可能にしてほしい。

専門教育での指導力形成関連 (コード : S)

2019年
11月21日(木)
13:30-16:40

コーチング技能を活用した学生指導

講師 出江 紳一 (東北大学 教授)
倉重 知也 (株式会社イグニタス 代表取締役/エグゼクティブコーチ、国際コーチ連盟(ICF)、プロフェッショナル認定コーチ、一般財団法人生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ)

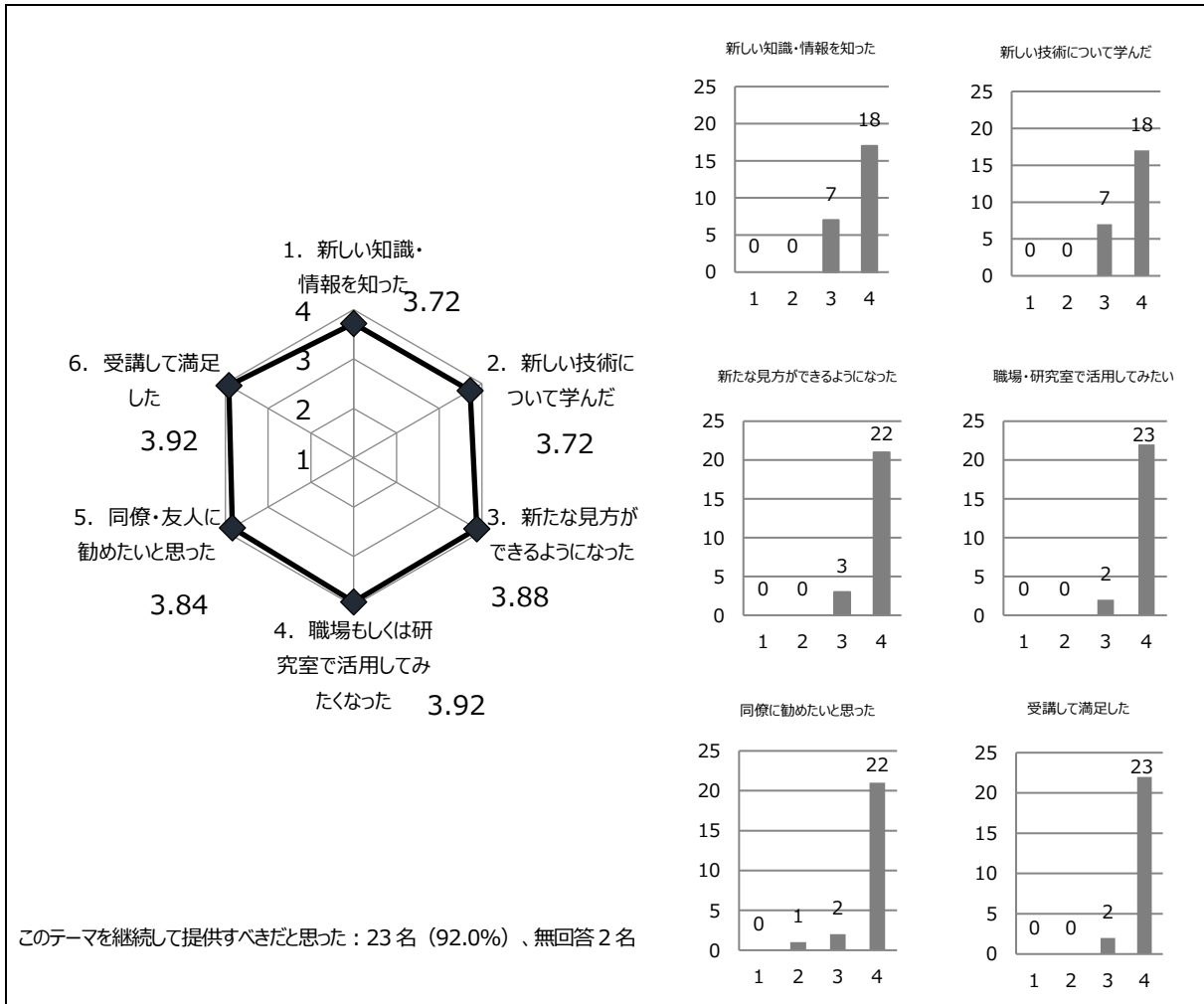
回収率 = 71.4% (25/35)

回答者属性(N=25)

【職階】 教授(1)/准教授(7)/講師 (1)/助教・助手(10)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)
/職員<係長・主任・一般職員等>(2)/その他(2)/無回答(2)

【性別】 女性(9)/男性(13)/無回答(3) 【学内外】 東北大学(9)/他大学等(13) /無回答(3)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・具体例が多かったのですぐに教育に活かすことができそうです。
- ・コーチングの理論、概念など理解できた。
- ・オープンQ、クローズドQの活用法
- ・実際に学生の指導に対して自分の長所短所を確認できたので、今後長所を生かし、短所に注意していきたいと思いました。学生のうそを引き出す詰問に関して今後本当に注意したいと思います。
- ・コミュニケーションスキルということではなく、基本は人と人との関わりが大事であるということ、やる気を引き出す効果的な質問を活かすこと。
- ・人との会話の言葉えらび
- ・相手にオートクラインを促す質問の仕方
- ・今をポジティブに考える。自分のノートで自分の言葉で書く。質問の基礎知識。話す書くを両立させる。

- ・ポジティブな質問をすることがポジティブな行動につながる。
- ・質問のしかた
- ・対学生、対同僚への働きかけについて、具体的方法を見つけられました。
- ・20点がええよ、100点でなくてもよい
- ・具体的にコーチングの手法を学べて勉強になりました。
- ・学生への話の仕方についてこれまでの自分を振り返って反省すべき点多かった。
- ・話し手と聞き手の相互作用の原理がわかり、自発的な行動に結びつくようなコミュニケーションを理解できた。
- ・やる気を出させる質問のしかた
- ・コーチングの理論と実践を学び、何げないところから実践しようと思った。クセはすぐに直せないかもしれないが、意識することが大切だと思うのでできることからやってみようと思う。
- ・コミュニケーションのとりかた
- ・会話を大事に！
- ・コミュニケーションに大切なスタンス。行動をおこさせるための声のかけ方・質問の仕方。職場だけでなく、自分自身や子育てにも応用したい。
- ・自身のスタンスを自覚するうえでのコーチング実践授業ペーパーの使い方

3. わかりにくいと思ったこと

- ・具体例をもう少し聞きたかった。(先生方の実践事例)
- ・特にありません
- ・出江先生のお話をゆっくりきかせてほしかった。(少し早かったかな)
- ・どこからどこまで「介入」すべきで、どこから先は自発性に任せればよいのかという問題

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・講義の部分もっと時間をかけて聞きたかったです。講師の方々のお話はすばらしいと思いました。また受講してもよいですか？
- ・講演会とワークショップの両方があり大変素晴らしい会だったと思います。ありがとうございました。終了時間は守っていただきかったです。
- ・わくわくしました。
- ・忘れたくない場面が多すぎて困りました。非常に分かりやすく身になる体験でした。ありがとうございます。
- ・本日はとても勉強になりました。有難うございました。
- ・とてもすばらしいワークショップでした。
- ・お二人の先生方のセミナーは明日から使える知識ばかりだった。
- ・十分な体験の時間もある理解に役立った。
- ・とてもすばらしいワークショップでした。充実していました。医局でも話していただきたいです。

2020年 1月14日(火) 13:30-17:30	国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM(科学・技術・工学・数学)教育 -DBER(分野別教育方法研究)による授業変革と政策動向-	
	講師	Kimberly Tanner (サンフランシスコ州立大学 生物学科 教授、同大学 科学教育連携・評価ラボ所長) 安田 淳一郎(山形大学 学士課程基盤教育機構 准教授)

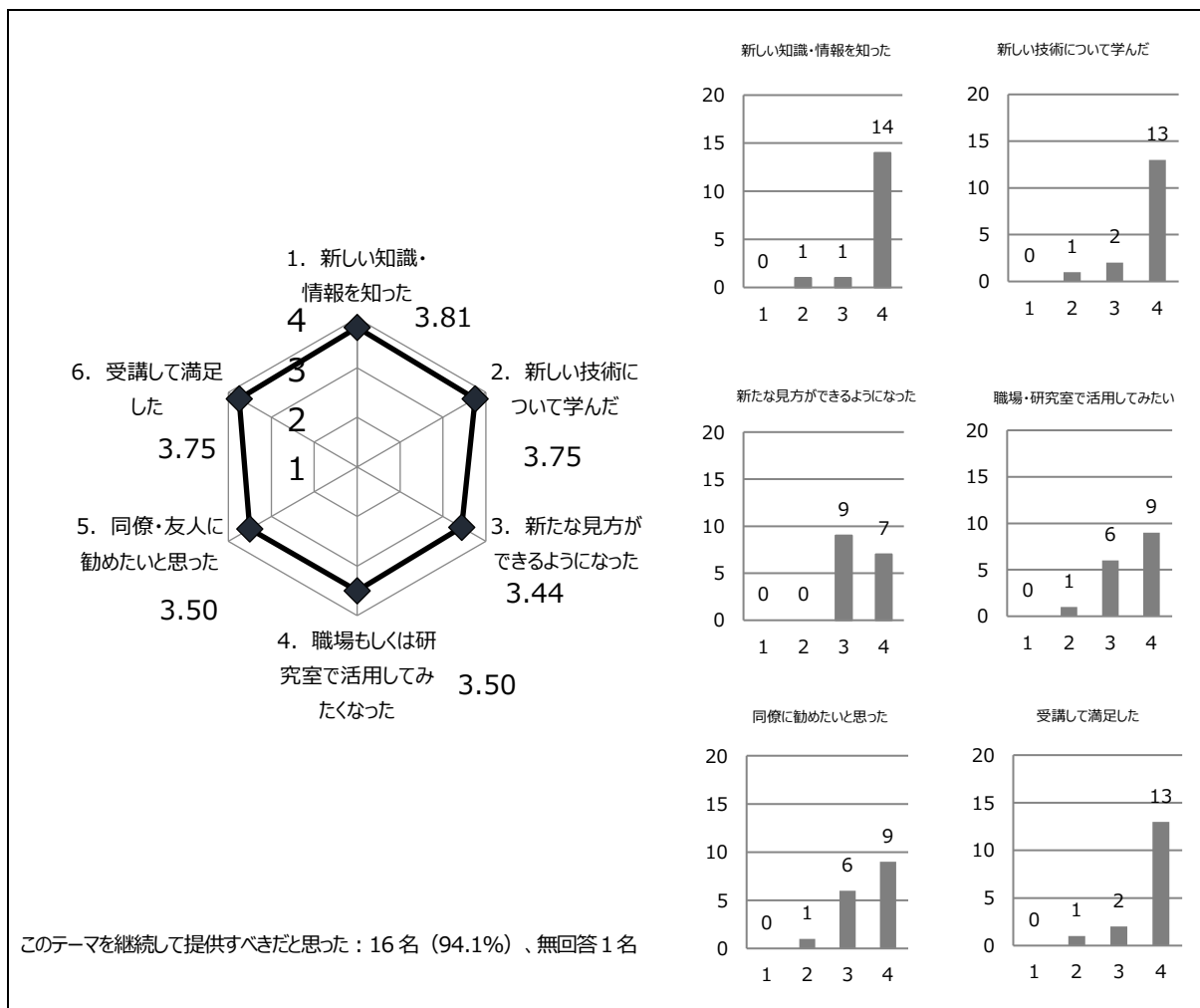
回収率 = 70.8% (17/24)

回答者属性(N=17)

【職階】 教授(4)/准教授(6)/講師(2)/助教・助手(0)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(1)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(0)/その他(4)/無回答(0)

【性別】 女性(5)/男性(11)/無回答(1) 【学内外】 東北大学(1)/他大学等(14) /無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- All talks were very interesting
- 教育評価への適用
- キンバリー先生による授業分析
- 5E MODEL
- 授業分析の仕方を参考にしようと思います
- 脳の話
- 5Eによる整理
- BSCSの中にこのような”5E”のあることを知らなかったが、math educationでも使えると思った

3. わかりにくいと思ったこと

- DBERのDについてのご説明、ERが大半の内容に受け止められた
- 同僚を巻き込むことのヒントを聞き逃しました

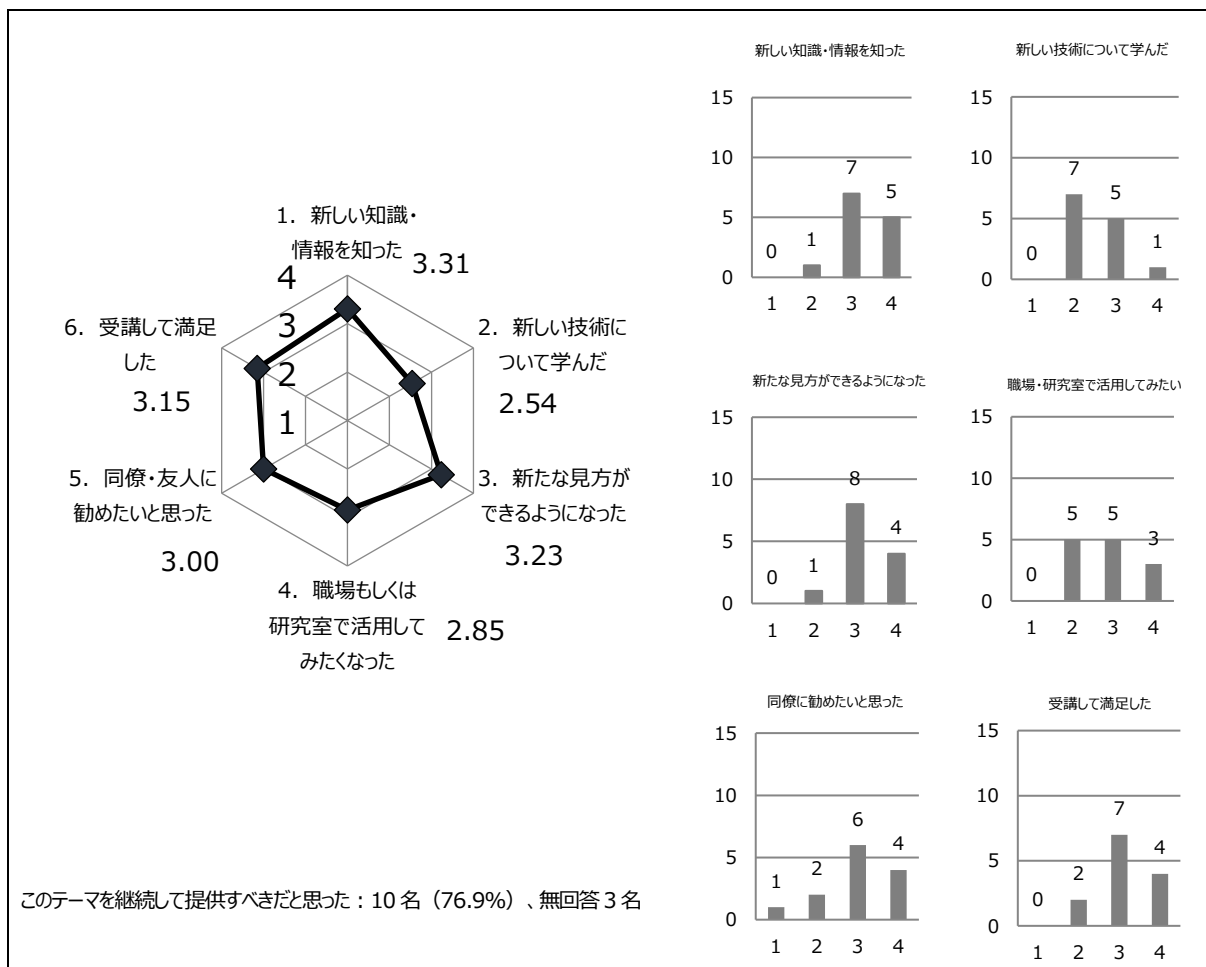
- ・山形大学の実践、今ひとつ重要性がわからない
- ・DBER はなんなのか。STEM との関係は？

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・ONLINE での提供（事後の振り返りのため）を参加者にお願いできればと思います
- ・どうもありがとうございました
- ・教育系の英語に不安があったのですが、とてもわかりやすかったです
- ・室内マイクの音量が大きかった（大きすぎた）ため同時通訳の声が聴きとりにくかったです（片耳をふさがなければならなかった）多分、同時通訳のマイクにも、室内の音声が入ってきてしまっていました

2020年 1月15日(水) 13:30-17:30	国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM(科学・技術・工学・数学)教育 -DBER(分野別教育方法研究)による授業変革と政策動向-	
	講師	山田 礼子(同志社大学 社会学部 教授、大学教育学会会長) 孟 衛青(広州大学 教育学部 教授、九州大学 訪問研究員) マーチン・シュレーダー(東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任教授) 小笠原 正明(北海道大学名誉教授、大学教育学会前会長)
回収率 =54.2% (13/24)		
回答者属性(N=13) 【職階】教授(5)/准教授(3)/講師(2)/助教・助手(0)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(1)/職員<係長・主任・一般職員等>(0)/その他(0)/無回答(2) 【性別】女性(5)/男性(6)/無回答(2) 【学内外】東北大学(0)/他大学等(11) /無回答(2)		

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・学際展開
- ・2日目のSTEMの本質的な部分と1日目の具体的な方法論
- ・STEM教育改革の一例としての、研究室教育改革論
- ・プログラミング教育が有効か?の観点。点で教える知識をつなげるのは学生次第という観点があるこそでそこへ導くのが大学であるという考え
- ・国レベルでの動向の理解
- ・DBERをフレームワークにする授業設計。5Emodel
- ・多くの価値ある情報に驚いて整理がついていません
- ・The talk of Prof M J Schroeder "Little learning is a dangerous thing"
- ・感性 Engineering, Humanity

3. わかりにくいと思ったこと

- ・STEMstudent の定義
- ・関心のある分野なので特でない
- ・データにもとづいたスライド (資料はカラーの方がいい)
- ・5E を教育への取り込み方
- ・NA
- ・STEM とは? 具体的に行うべき教育は何か?

4. セミナーについての意見・感想

- ・タイトルと内容が不一致ですね
- ・2 日目は、講義スタイルが多かったので、この部分は動画でもよかったかと思いました
- ・イノベーション立国 (世界経済フォーラムのランキングなどで) となっている北欧の教育にももっと日本のヒントがあるので世界に学ぶなら入れるべきだと思った。社会構成主義的には教育の成果の 1 つが国づくりなので
- ・Skype 等の併用もご検討いただくと助かります
- ・In ancient greece, math was a liberal Art and in future. I think that the fundamental of STEM is the Math it seems that Math is a general concept.

2020年 1月17日(金) 13:30-16:00	模擬授業を通して学ぶSTEM(科学・技術・工学・数学)教育における 修学効果の高い学生主体の指導方法	
	講師	Kimberly Tanner (サンフランシスコ州立大学 生物学科 教授、同大学 科学教育連携・評価ラボ所長)

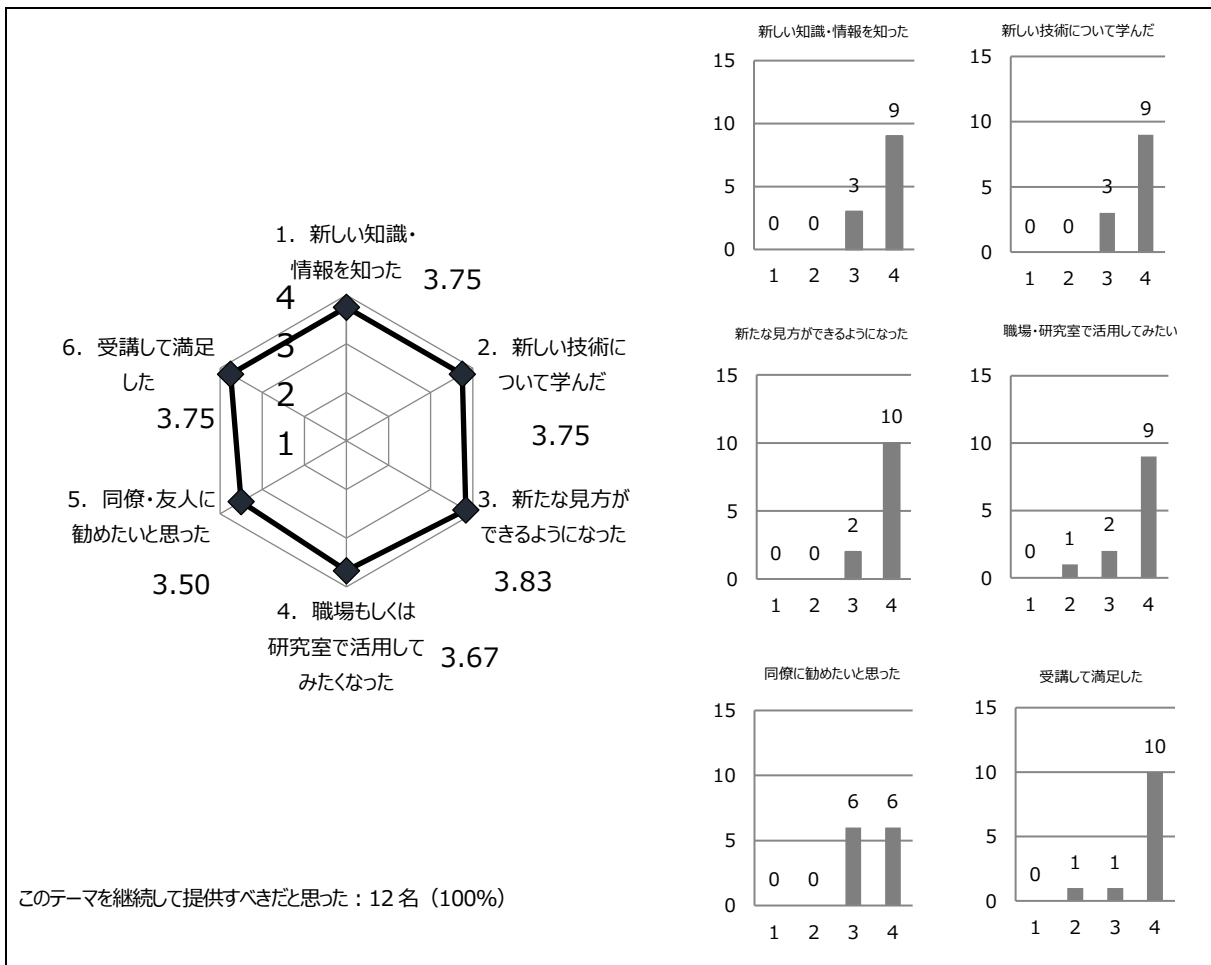
回収率 =80.0% (12/15)

回答者属性(N=12)

【職階】 教授(1)/准教授(4)/講師 (1)/助教・助手(4)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(0)/その他(0)/無回答(2)

【性別】 女性(5)/男性(4)/無回答(3) 【学内外】 東北大学(7)/他大学等(2) /無回答(3)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・学生の集中力をキープする
 - ・ Activities and content
 - ・ active learning の実践
- ・ 3 different recipes for active learning、many modification for a variety of situations
- ・ 学生さんがどのように新しいことを学んでいくか、身をもって体験することができて、非常に良かった
 - ・ 時系列でプランニングすること
 - ・ Agree or Disagree の質問、授業の始めで
- ・ 時間ごとの Assessment によって実行可能な学びが異なるため、講義の構成を考えるのに役に立つと思った
 - ・ どの程度の question にすればよいのか、感覚的にわかった
 - ・ active learning の具体的なテクニックについて学んだ

3. わかりにくいと思ったこと

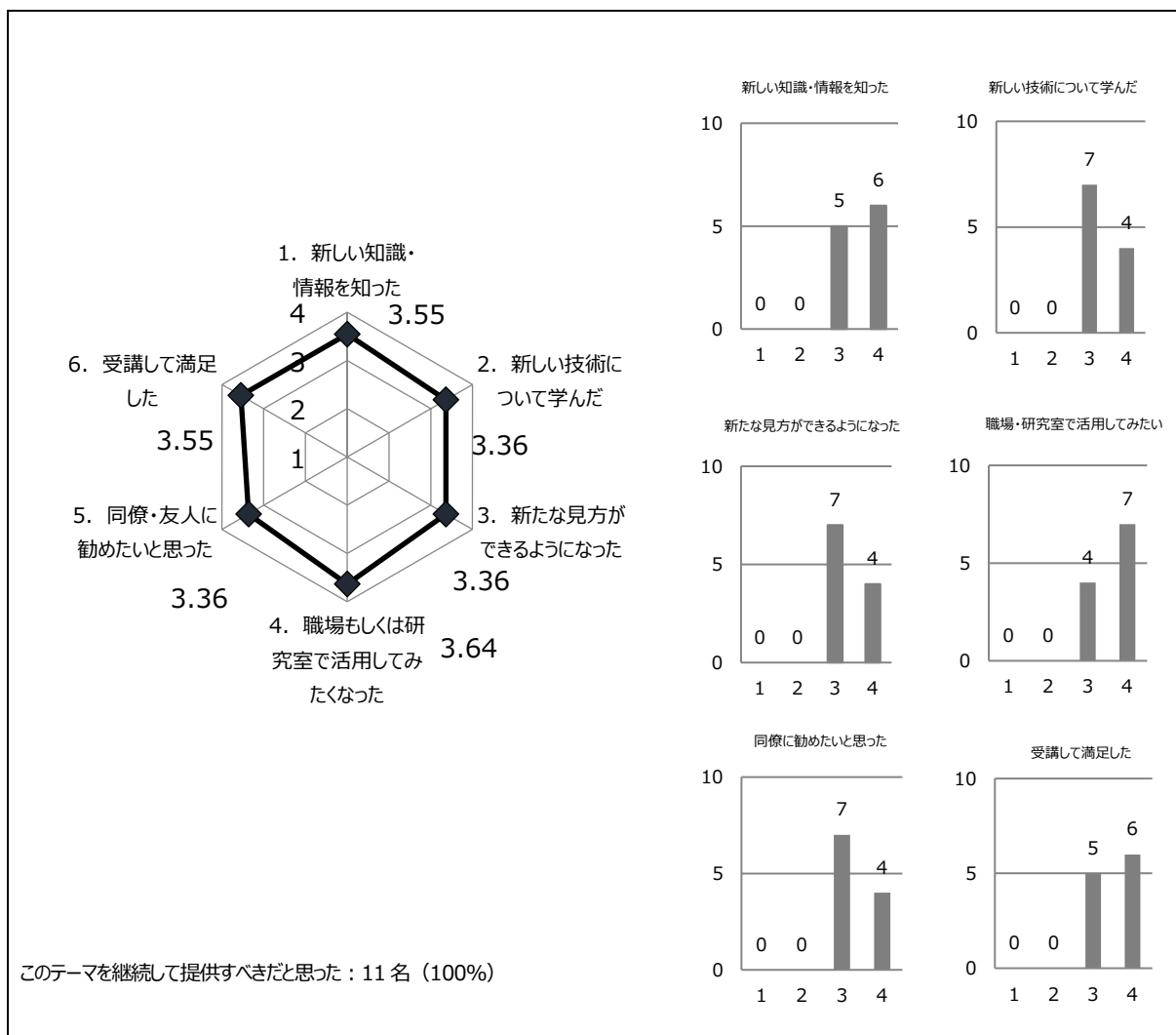
- all good
- FD とか文脈
- アメリカの学生のように積極的ではない日本の学生に対して意見を言わせるのは難しいのでそのまま講義に使うのは難しいかなと思った。大教室で使える **Active Learning** が知りたかった
- ときどき早口でついていけない時があった

4. セミナーについての意見・感想

- this was a very enjoyable! I met other staff
- 時間も場所もよかったです。このような内容を教員個人ではなく各研究科で採用してほしい
- 今までのセミナーでベストなセミナーで勉強になりました。AL についての鈴木先生やノーベル賞の方のあとをうけて連続で聞いたのがよかったです
- 海外の学生がどのような授業を望んでいるのか、教員が対応できるかわからないのですが対応可能な技術（スタイル）が分かれば取り入れたい

2020年 1月25日(土) 13:00-17:00	J-CLIL Tohoku Symposium Exploring the Potential of CLIL within the Japanese Context	
	講師	Barry Kavanagh (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授) 小島 さつき (宮城大学 基盤教育群 准教授) 岩野 雅子 (山口県立大学 国際文化学部 教授) Mark Swanson (山口県立大学 国際文化学部 講師) Graham MacKenzie (上智大学 言語教育研究センター 准教授)
回収率 =61.1% (11/18)		
回答者属性(N=11)		
【職階】 教授(0)/准教授(3)/講師 (4)/助教・助手(0)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(0)/その他(2)/無回答(2)		
【性別】 女性(4)/男性(4)/無回答(3) 【学内外】 東北大学(1)/他大学等(5) /無回答(5)		

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうだったこと

- ・ the language for learning more about CLIL
- ・ CLIL の研究状況、実践状況
- ・ All were very informative clil J learned a lot! I fond tha lesson by Mr.mackenzie & most useful
- ・ scaffolding についての活動が特に勉強になった
- ・ the really like the workshop activity
- ・ Recap on theoretical principles
- ・ 欧米タイプの講義だと思ったが組み立て方が少し理解できた

3. わかりにくいと思ったこと

- I want to learn more about how I can apply/ incorporate/improve what I learned and what I am currently developing
- “日本での”課題の解決につながるアイデア（日本人の英語力が低いこと、英語を専門の両立をどうとるか）
- the process of whisky making
- CLIL の 4C's は、何故に CLIL において特に重要か？ Language のみ、 Contents のみの教育においても重要ではないが、何故特別なのか？
- Nothing I'm a genius
- assessment of each part
- assessment various ways each part

4. セミナーに関しての意見・感想

- maybe changing group members part way through
- thank you for organizing such a good seminar I will surely try to rely more on CLIL when teaching, some handouts were not complete
- 大変勉強になりました
- Have them more often !
- 学内の知り合いに会えてよかった。なかなか土日に来られないので動画も助かる

2020年 2月7日(金) 13:00-15:00	産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム設立準備記念講演会 「日本の未来を拓く人材育成：大学と企業に求められる変革」	
	講師	出口 治明 (立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長)

回収率 = 73.0% (65/89)

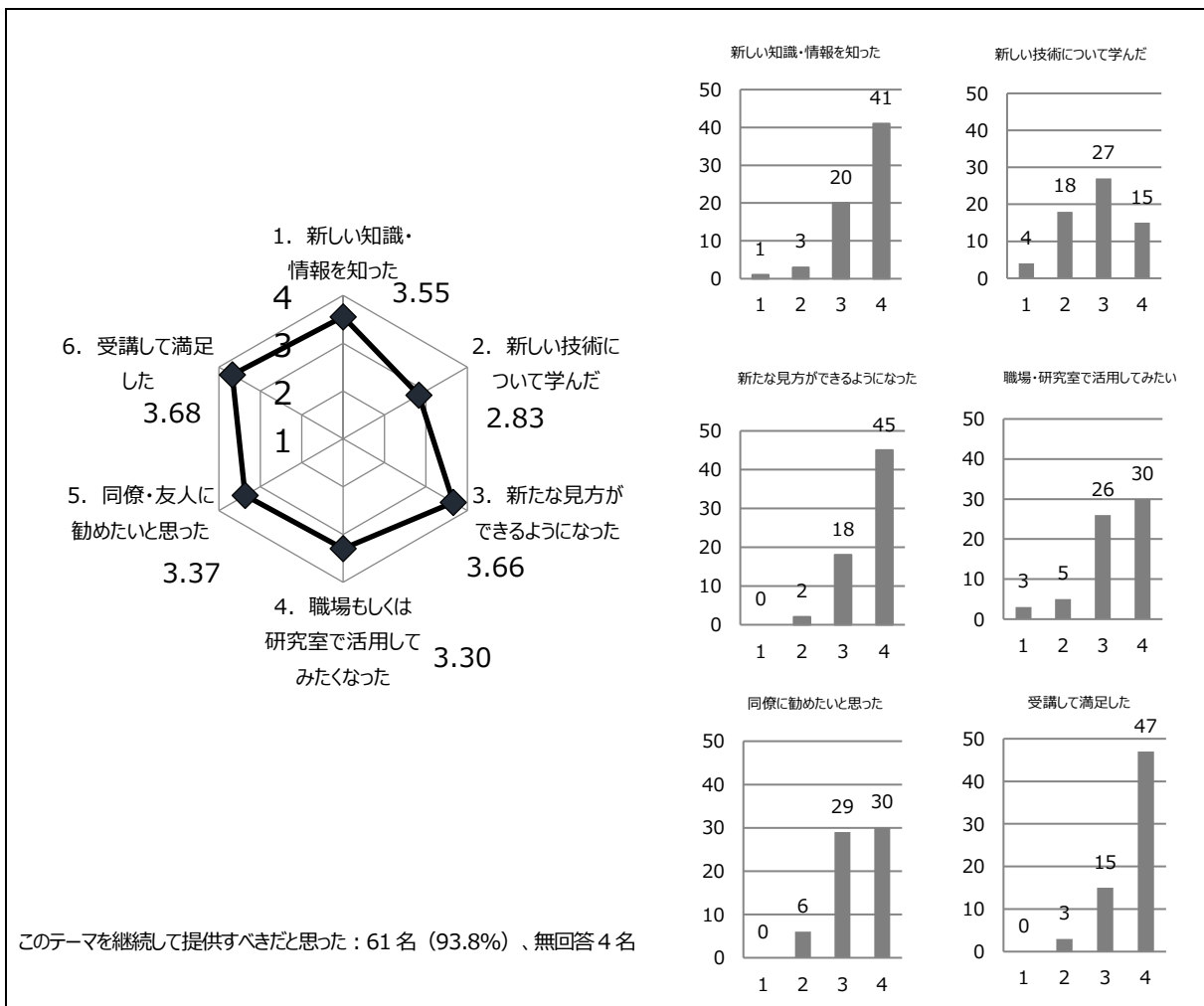
回答者属性(N=65)

【職階 大学等高等教育機関】 教授(6)/准教授(6)/講師 (2)/助教・助手(4)/管理職教員<学長～学部長>(2)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(4)/職員<係長・主任・一般職員等>(9)

【職階 企業・団体等】 課員<係長・主任・一般課員等>(3)/管理職<部長・課長以上>(11)/役員<代表取締役・取締役等(2) /その他(6) /無回答(10)

【性別】 女性(19)/男性(44)/無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・就職支援は企業許可ではなく学生がやりたいことを支援すること。学びは一生であり、好きなことにイノベーションがある
- ・エビデンス>エピソード
- ・実務家教員育成研修プログラムの詳細を把握できた
- ・小生は三菱 UFJ 銀行でリスク管理面の人材育成を担当しています。学生の自主性 (APU) 尊重は良いヒントになりました。従業員が自主的に行動したくなる仕組みを作ることがカギだと思います
- ・新人教育プログラムのアイデアをもらえた。(成績の話やこれから必要になる3つの力、教育のキーワードとか)
- ・今後の日本を変えていくために、今やらなければいけないこと、考えなければいけないことを考える機会となった
- ・セパレーションではなくインクレーションで活動するようにすること、多様性を理解して学び推進していくこと
- ・民間を知っている出口さんの発想。アメリカ=脳科学、幹部研修。日本=ハウレンソウの逆
- ・出口さんの講義全て、実務家教員について
- ・採用に成績を入れること

- ・エビデンスに基づいた“日本がいかに破綻しているか”が大変学びが多く、企業人として危機感を感じました
- ・出口先生のお話は企業研修にも取り入れてほしいと思った
- ・興味を持たせる教育
- ・出口先生の話
- ・すべて良かったです
- ・教育の根本的な考え方、企業が変わるべき点
- ・日本の国家予算について、エビデンスに基づいた考え方と行動の重要性
- ・3つのポイントについて同感した。①女性②多様性③高学歴
- ・平均、普通、正常という概念を前提にしない
- ・女性差別をなくす努力
- ・日本の社会がどうしてこうなったか分かり易かった。大学のキャリア教育に関わっているため、これからの教育に取り入れたいと思った
- ・出口様から物事の見方、考え方、視点
- ・貴コンソーシアムの内容や趣旨の理解が深まりました
- ・日本の今後の人材育成に必要な3つのポイントについてよくわかり腑に落ちました。
- ・出口先生のお話は本当に勉強になりました。大学職員としてもっと視野を広く持ち、学生のニーズに応える大学を目指していきたいと思います
- ・エピソードとエビデンスというキーワードの重要性を再確認した
- ・実務教育者の拡張
- ・多くの関係者が実務家教員養成に向けて準備を始めていることがわかった
- ・ダイバーシティについては特に共感した
- ・「大学は学生がやりたい事を見つける手伝い、やりたい事をサポートする事が大切である事」は非常に感銘しました。また、歴史的観点からの構造の説明やどうすべきかの解も伺え、勉強になりました。
- ・均質な教育からの脱却と探求力の重要性についてです。
- ・大学がやるべきこと、企業がやるべきこと
- ・evidence と episode
- ・製造業の5大要素について自社について再考してみたいと感じた
- ・エビデンスベースで考える重要さ
- ・くらべない、好きなことをやらせる、行動しなければ世の中変わらない
- ・日本の成長力を高めるには企業、また教育の根本的なあり方（女性、ダイバーシティ、高学歴）を変える必要がある点
- ・社会を変える3つのテーマ、女性、多様性、高学歴。仕事のチーム作りに生かしていきたい
- ・はじめの10分だけは納得できた
- ・企業人が民間企業で身に付けるスキルを活かせるという機会は知らない人も多いと思うので、広めたいと思います。（個人的にも興味が湧きました）
- ・非常に理解できました。ありがとうございました。
- ・「古い考え方を打破する」という重要性が比較的年齢層の高いオーディエンスを伝えるという意味で意義があったかもしれない。時々明治や開国などの歴史に解する辺りが良かったです。

3. わかりにくいと思ったこと

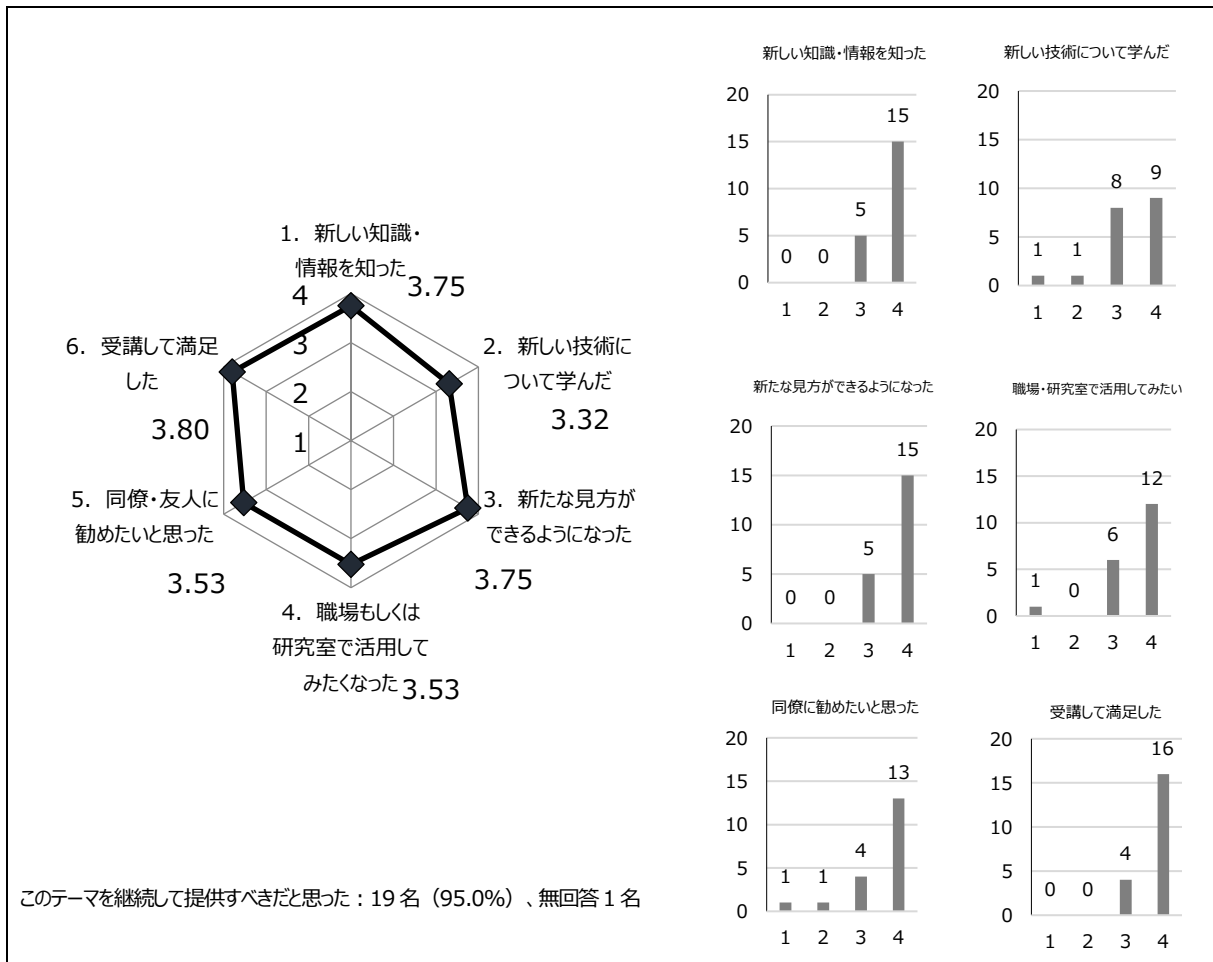
- ・新しいイノベーションを生み出さないとダメなのはよく理解できる。具体的に何をすればいいのかわかりにくかった
- ・大学の成績は信用できるのか
- ・世界にはばたく多様な高学歴とは
- ・専門用語（私の勉強不足です）
- ・「好きなことはとことんやってみる」「自分の時間を持つ」だけで本当に良いのか？「アイデア勝負」はアイデアがあれば良いのか？
- ・企業の採用基準に成績を入れるのもわかるが取り入れるのは難しいと思った
- ・高学歴が3つのうち1つのポイントだということだが、大学教育の質や内容が実社会では役に立たないと考えている企業が多いのも事実。企業がすべて悪いのではなく、双方が歩み寄らなければいけないのでは？と思った。
- ・本コンソーシアムの拡張の方向性
- ・出口さんらしい講演でしたが「汎用性」の点で幾らか詰めの甘さを感じました。
- ・「日本の企業は人を大事にしない」という意見には大きな反発を感じる。何をエビデンスにして言っているのか。一部の要素しか見えていないのに全体を語れるのか。
- ・とんがった学生を伸ばす大学教育の内容
- ・自分自身がどういう形で（どういう分野の）学びを行うのかについて整理して考えたいと思いました。
- ・実務家教員の具体的な姿
- ・evidence と episode
- ・実務家教育とは何か
- ・特にない。あえて言えば出口様の話なら大変話し方もうまく、資料は本当に必要なものだけでよい。配布されたPPTの画面が多すぎると感じました。
- ・歴史の話が長すぎた。もっと大学教育をどうするべきかを話してほしいと思った。企業はなぜ成績を重視しないのか？それを変えるためには大学や企業は具体的に何をすべきか？が問題であって、大所高所の話は聞き飽きた

4. セミナーに関する意見・感想

- ・可能であれば産業領域との連携を取ってほしい（経産省、産業人材育成担当）
- ・ご準備ありがとうございました。
- ・企業側の意見を聞く場が重要。少なくとも企業側は「実務家教員」の必要性を全く認識していない（元民間企業の出身者として）今回のように企業のことを理解していない講師に語らせるのは逆効果となる

学生支援力形成関連（コード：W）	
2019年 12月12日（木） 13:30-16:00	SDP シリーズ第2回（2019年度） 多様な学生の理解と支援：留学生とLGBT学生に注目して
	講師 河野 禎之（筑波大学 人間系/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 助教） 小島 奈々恵（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師）
回収率 =68.97% (20/29)	
回答者属性(N=20)	
【職階】 教授(0)/准教授(1)/講師 (0)/助教・助手(4)/管理職教員<学長～学部長>(1)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(2)/職員<係長・主任・一般職員等>(5)/その他(4)/無回答(3)	
【性別】 女性(11)/男性(5)/無回答(4) 【学内外】 東北大学(10)/他大学等(5) /無回答(5)	

1. 参加した感想（1. 当てはまらない～4. 当てはまる）



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・セクシャル・マイノリティーの方々への理解をしようとする意識
- ・LGBTQ についてわかりやすい説明でした。
- ・①留学生の支援について→具体的な架空事例を多く紹介頂き、留学生の直面する問題についてイメージすることができました。相談を受けた際に教職員が頼れる機関について紹介頂いて良かったです。

②LGBTの学生支援について→個々人によって状況や困難を感じる点が大きく異なることがわかって良かったです。筑波大学の事例や窓口設置の経緯、その中で配慮された事など細かく教えて頂いて勉強になりました。性の多様性について少しずつプログラムが増えてきた頃に学生時代を過ごしましたが、最新の研究成果も交えてお話し頂き、より深く知るよい機会でした。

- ・ カテゴリーごとに対応するのではなく、個々人に合わせた対応が重要
- ・ LGBT当事者視点で考えることの重要性
- ・ 筑波大学のガイドラインとワークシートが大変参考になりました。
- ・ 留学生支援と障害学生支援とつながる部分が多くあると感じた。学生支援として包括的に捉えて支援していく必要があると思う。全ての教職員が理解すべきことである。ダイバーシティの視点で支援していきたいし、そういうキャンパスを作っていきたい。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・ 私は助手ですが、直接学生指導にあたる上の先生方の理解（具体的な支援までいなくても、分かっているということ）があってほしいと思いました。（私の研究室の上司にあたる先生は、学生指導やサポートに時間を割きたくない先生で先生と学生の間で立って困ることが何度かありました。個人の性格なところもあるので難しいのですが…）

4. セミナーについての意見・感想

- ・ 今回の内容をきいて、学生向けにも同様のセミナーがあればよいと思いました。
- ・ SDPは本学が誇るべき取組でもあるので、もう少し広報周知を広めるべきと考える。

マネジメント力形成関連 (コード : M)

2019年
7月6日(土)
13:00-16:00

SDP シリーズ第1回 (2019年度)
私立大学の教育改革を支える「中堅リーダー」の育成と活用
- グッドプラクティスから考える -

講師

高良 要多 (桃山学院大学 大学統括部教務課 選任職員)
山本 幸一 (明治大学 教学企画部教学企画事務室)
長山 琢磨 (東北学院大学 法人事務局庶務部庶務課 係長)
大森 昭生 (共愛学園前橋国際大学 学長)

回収率 =82.5% (33/40)

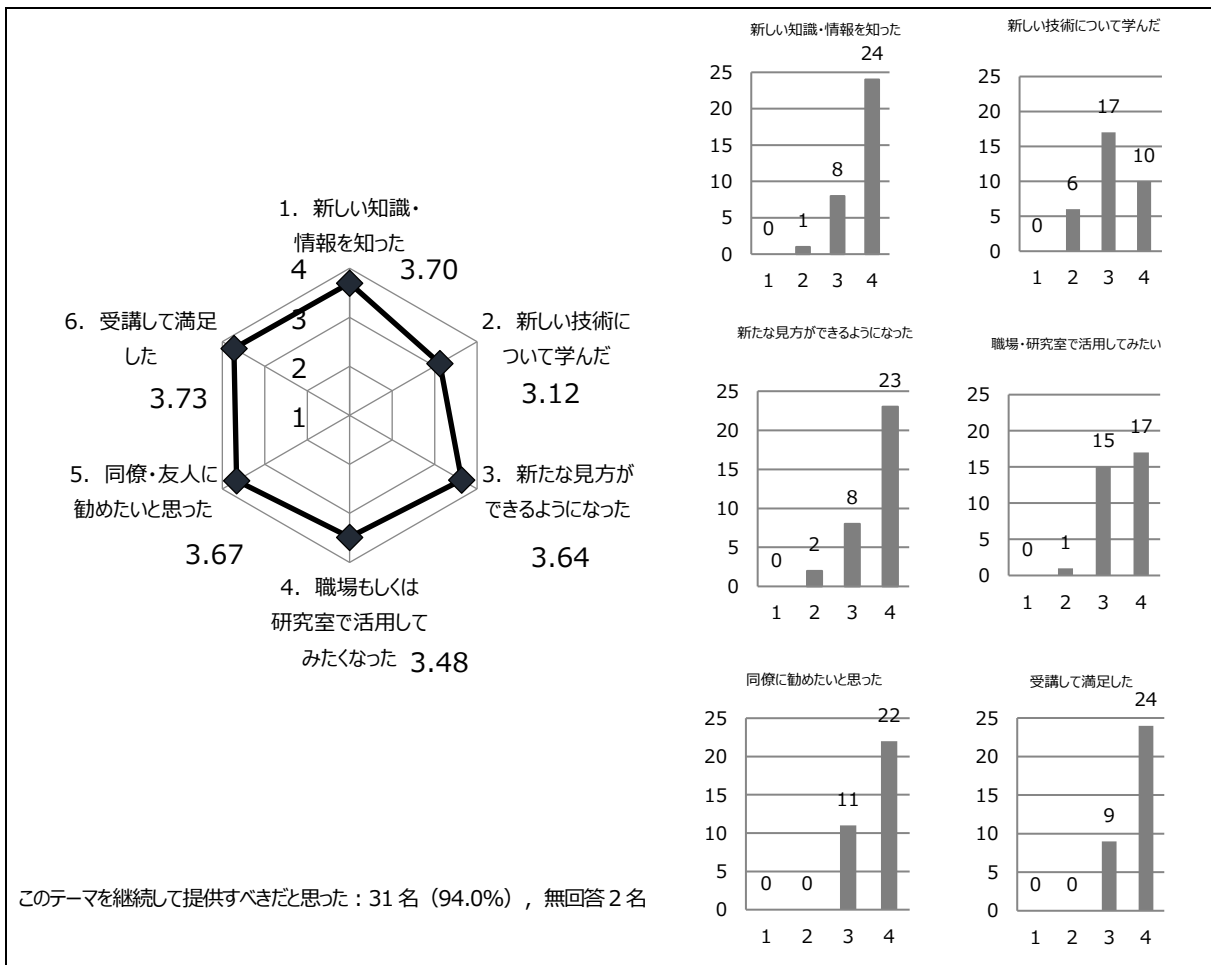
回答者属性(N=33)

【職階】 教授(0) / 准教授(1) / 講師 (1) / 助教・助手(0) / 管理職教員<学長~学部長>(0) / 博士課程(0) / 職員<部長・課長以上>(12) / 職員<係長・主任・一般職員等>(14) / その他(4) / 無回答(1)

【性別】 女性(6) / 男性(26) / 無回答(1)

【学内外】 東北大学(1) / 他大学等(30) / 無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・東北学院大学の中長期計画と戦略経営、大森先生パネルディスカッション、視点を高く持つ。
- ・IR機能の活用について明治大学では経営の中での確に活用されており、近年の躍進につながっていることがよくわかった。本学でもIRの強化による教学・経営の活用が保証になっているので今後も研修等の機会があれば参加していろいろとお教えいただきたいと考えております。
- ・教学も含め改革するのにIRが重要ではないかと再確認できた。
- ・部署の事だけを見ずに大学全体を見る事。データに基づいて改革を進める事。情報収集の方法。科目整理の方法について。
- ・IR機能の形成・役割についての報告、カリキュラムの改革、10年後研修等大変参考となった。また人材の育成方法のヒントを得た気がする。学生分類を適切に設定して分析すること。
- ・共愛学園の話
- ・人を育てる視点

- ・視点を高くもって、どうやって大学全体につなげていくか。
- ・ミクロとマクロをつなげられる人の活用。
- ・登壇者の視点の高さ。自分も意識したいと思った。
- ・カリキュラムの改革、下地の整備。
- ・IRについて。学生参画について。教職協働一体について。
- ・広い視点を持つこと。
- ・他大学の現状が知れたこと。特に IR 機能の形成では専門職が必要であると思っていた考えに変化を起すことが出来た。今後の急務になると思いました。また教職一体ガバナンスについて、改めて考えさせられた。やらなければ変わらない。
- ・改革を進めるにあたって、根拠となる事実・知識の集積がスタートとなることを再認識できたこと。そしてその後の概念化がキーとなることについて(ICE-Model)、事例3) 九大 21 世紀プログラムは今後の入学者選抜(まさしく総合的かつ多面的な評価)をする上で参考になります。
- ・各講演内容を自学においてどのように活用できるかこれから考えたいが、共愛学園前橋国際大の教職協働は参考になった。
- ・小さな短大のため、大森学長の大学運営をぜひ取り入れたいと思いました。オモシロイ!
- ・他部署と連携する際に情報をまとめられるか、自身の業務を大学の方針といかにつなぐか大変勉強になりました。共愛学園前橋国際大学の組織としての体制等大変勉強になりました。
- ・桃山学院の次改革の進め方
- ・科目を絞ることの重要性を感じました。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・中長期計画の実質 IR と戦略経営は、ほかの報告に比べ具体性、具体例がなく抽象的な話であった。
- ・管理職までいかないが管理も実務も一番こなしていく職位だと思いますが、中堅リーダーとしての苦労などをもう少し具体的に聞ければよかったです。
- ・皆さん、まとめ方が素晴らしく、バックボーンを知らない私でもとてもよく分かりましたのでありません。
- ・業務はよく分かったが、中堅リーダー育成のために何をやるかがみえなかった。リーダーになるためのキッカケやプロセスをもう少し知りたかった。
- ・IR については知識がなかったので、明治大学以外の大学の実践例など幅広く学びたいと思いました。

4. セミナーに関する意見・感想

- ・先進的な取り組みをされている大学の方々の課題設定や自大学における改善対応の方法論等がそれぞれ大変わかりやすく整理されており、大変参考になりました。講義で使用した資料を配布していただけるのは、持ち帰って、自らの大学の課題を検討する際に参考にさせていただいたり、関係者間で必要な情報について共有したりできるので大変有意義でありがたいことと思っております。
- ・17:00 くらいまでみっちりやっていただけてもよかったかと思えます。
- ・大森不二雄先生が上手にまとめてくださいました。
- ・たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とても良いセミナーでした。私もプロ意識を持ちながら業務に取り組みたいと思いました。物理的に参加できないので動画を希望します。本日はありがとうございました。
- ・学部生に対しても今回のセミナーを告知してほしいです。

2019年 9月6日(金) 13:30-15:00	エンロールメント・マネジメントをどのように捉え、どのように進めるか(ワークショップ)	
	講師	鳥田 敏行(茨城大学 全学教育機構 准教授)

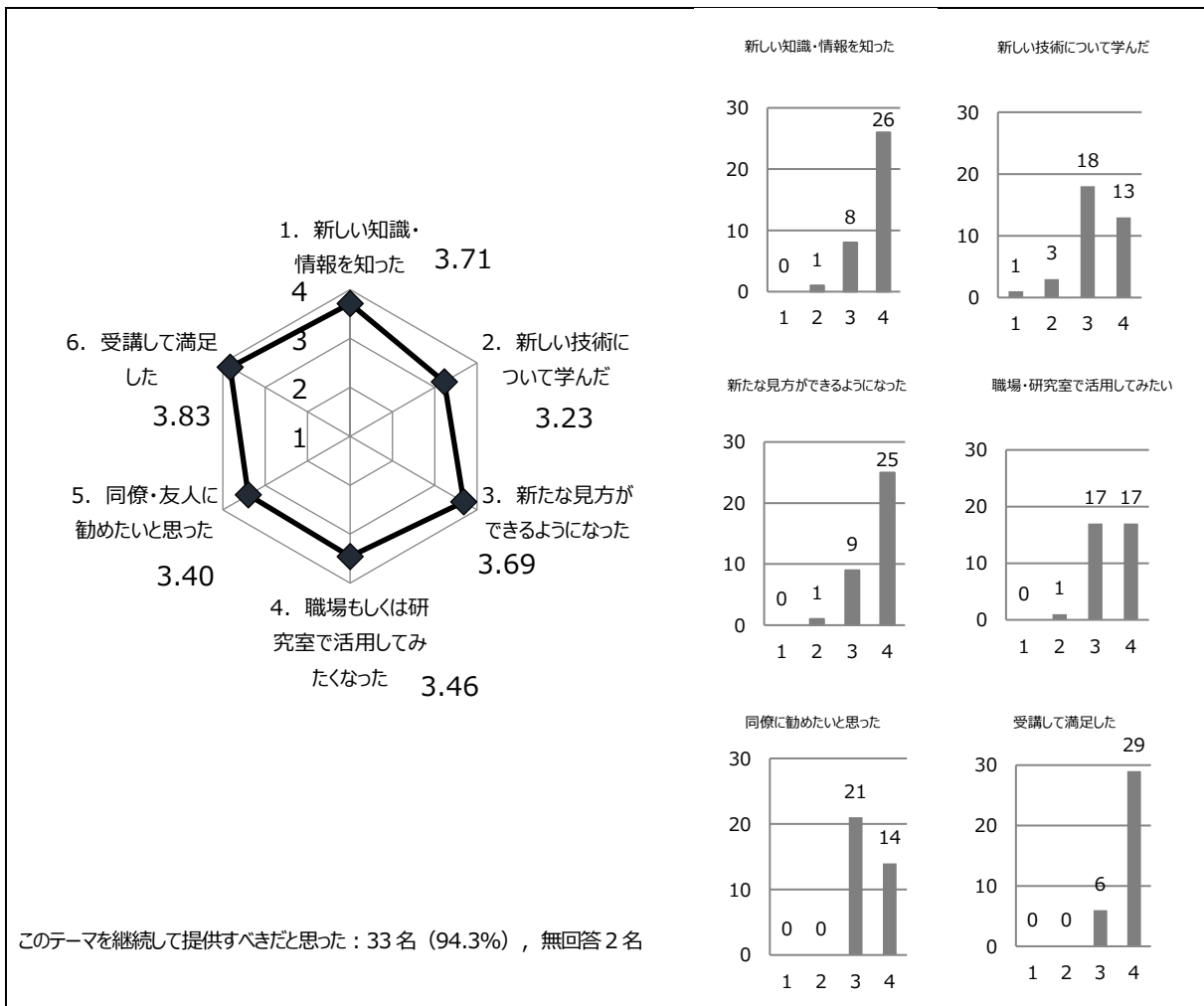
回収率 = 85.4% (35/41)

回答者属性(N=35)

【職階】 教授(1)/准教授(3)/講師 (3)/助教・助手(3)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(3)/職員<係長・主任・一般職員等>(17)/その他(3)/無回答(2)

【性別】 女性(15)/男性(18)/無回答(2) 【学内外】 東北大学(5)/他大学等(28) /無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・このテーマについて経験・知識が不足していましたので参考になりました。
- ・アメリカの現状
- ・ワークシートを作って問題を明確化し、整理・対策を分けて考える。
- ・学生のデータを全学で共有することとわかりやすい形での可視化
- ・IRについてどのような内容なのかイマイチ分からなかったのですが、説明いただきよく分かりました。
- ・大学の特性によって何をIRするのか。現場で使う、経営に役立てる為に行うことが重要
- ・見方を変えてみる、やれそうなどころからやる
- ・エンロールメント・マネジメントという考え方
- ・茨城大学でのEMの事例
- ・ワークショップによる課題共有
- ・海外のIR,EMの事情理解
- ・EM,IRが現場を含めた関心の喚起につながる事が最後の大森先生のまとめにあったように新たに気づかされたことで、そうした為にEM,IRを活用したいと思った。
- ・エンロールメント・マネジメントとは難しく考える必要はなく、普段の業務の中でできる事が多い事が分かった。
- ・東北大学の場合学部レベルではまだ殿様経営が出来ていて、しかも問題が顕在化していない。それならば学部レベルで実施す

るよりも、学部の中で進めている様々なプログラム挑戦的なプログラム（交換留学、国際化、法科大学院、国際共同大学院）を対象に考えてみてはどうか？

- ・大学への入職から半年しか経っておらず、中々大学について考えられる機会がなかったので考える良いきっかけとなった。
- ・実際の事例をおうかがいできたので参考にしたい（課題の発見、分析、データの活用方法など）
- ・自分の担当エリア以外の部署との関わり方等、再考する部分が多々あること
- ・大学内外部の幅広いデータが必要と新たに感じた。
- ・EMをどのように実践するか。情報の流れを作ること
- ・役立つということではないが意識が変わったことと、他部署や同僚等職員との連携が大事ということが分かった。
- ・アメリカでのEMの実際について学べたのでイメージがついた。
- ・IRのようなデータとひもづけて教育や学生支援を変えること
- ・実際に課題からやるべきこと（やれそうなこと）を考えていけたこと
- ・課題を見つけるためにはデータが必要。IRが収集したデータを現場にいる教職員がどう活用していくのかが大切
- ・EMの視点
- ・情報を伝えることはあくまでもプロセスであること。データの作成、データ結果の伝え方、活用についても有効な方法を教えて頂いた。
- ・課題・発見・分析&必要なデータの収集
- ・EMのワークショップは大学のSDとしてやればIRに携わる教職員だけでなく、多くの教職員の情報共有、部署を超えた横断的取組として有効だと思いました。
- ・EMの考え方のもの。IRの位置づけも併せて日本の大学にはまだまだ浸透していないので。
- ・エンrollment・マネジメント 生涯学習でつかえらると思えました。

3. わかりにくいと思ったこと

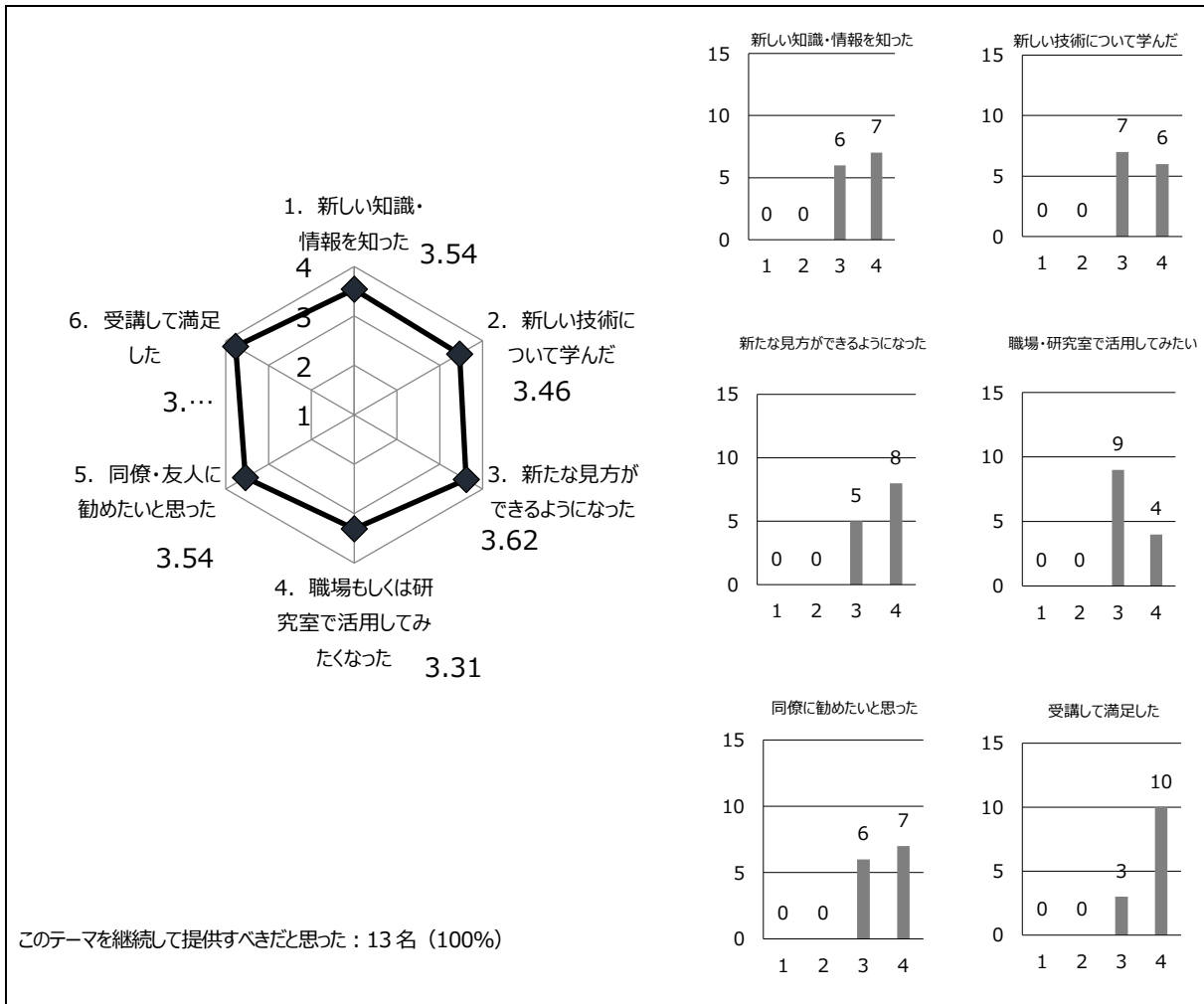
- ・work sheetが参考になりましたが、PPTがすぐ変わったので書きとれませんでした。
- ・「学びの最大化」は何をさすのか？
- ・総論がテーマだった為、導入例が見たい（効価測定）
- ・教員・職員のそれぞれの関わり方
- ・エンrollment・マネジメント（EM）実践の為の課題
- ・個人ワークの進め方スライドを配布していただけましたらワークがより進めやすいと思えました。
- ・特にありません
- ・情報共有が大事なのだが、個人情報保護問題をどうやってクリアしていくか
- ・エンrollment・マネジメント自体の具体例があるとイメージしやすいと思います。IRが大事だという話がメインなような。
- ・IRとEMの関係性についてももう少し知りたかった。
- ・実際の現場でどのようにとりにくいでいけば良いのか、ワークシートを使ったグループディスカッションに対するフィードバックがなかったので、そこがわかりにくい。PPTに文字が多すぎた。
- ・時間がたりなかった

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・他大学の方々から気がつかない視点からのアドバイスを得られるので、このようなセミナーはかなり有益であると思います。
- ・分かりやすくすぐ為になりました。ありがとうございました。
- ・90分は多少短かったかもしれませんが、ワーク、ディスカッションをもう少し行いたかったです。
- ・有難うございました。
- ・EMとIRとのつながりを、もっと深く学びたいと思っております。
- ・大変勉強になりました。有難うございました。
- ・普段の業務ではデータをもとに分析し、提案することが少ないですが、自身の部署にも積極的に取り入れていこうと思えました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・もう少し時間がほしい
- ・これまで全く知らなかった分野だったので役に立ちました。
- ・InputからOutputのワークショップでとてもよかったです。

2019年 11月28日(木) 13:00-16:00	グローバル人材育成を考えるー大学教職員に求められる意識と行動ー	
	講師	横山 匡 (株式会社アゴス・ジャパン代表取締役)
回収率 =68.4% (13/19)		
回答者属性(N=13) 【職階】 教授(2)/准教授(2)/講師 (0)/助教・助手(2)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(5)/その他(1)/無回答(1) 【性別】 女性(6)/男性(6)/無回答(1) 【学内外】 東北大学(6)/他大学等(6) /無回答(1)		

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・グローバル化の理解
- ・学生との接し方、グローバル人材の定義と求められること、グループワークの課題設定と運営方法
- ・とても分かりやすいお話でした。エンパワーメントされたと思います。
- ・グローバル人材の定義というテーマはよくあるが以外と時間をとって真剣に考えたことは無かった為勉強になった。
- ・グローバルの定義がはっきりとした
- ・内向きを最大に広げると Globalization
- ・学生に対してこれまで出会ったことのない人と接する機会を提供したいと考えている。
- ・「グローバル」にこだわらず人間として必要な考え方を学んだように思います。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・特になし

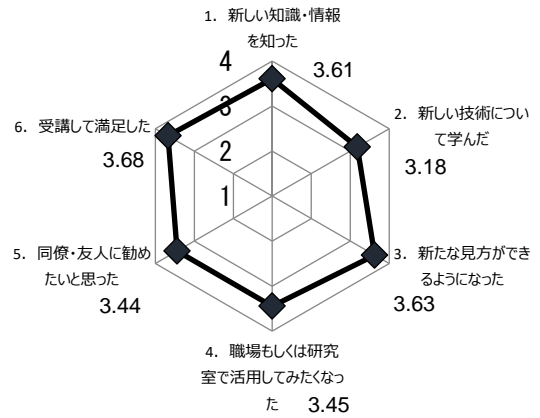
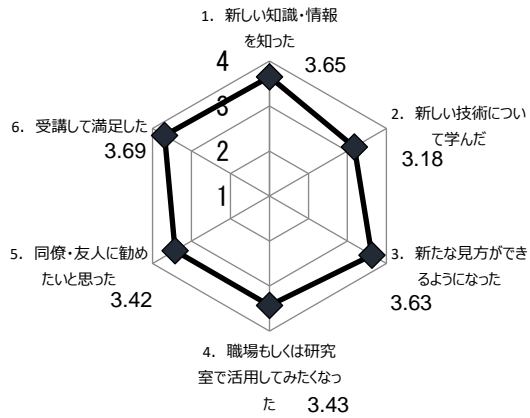
4. セミナーについての意見・感想

- ・有益なセミナーでした。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。とてもいい機会でした。
- ・息子が参加した HLAB を立ち上げられた横山先生のお話を自身も拝聴でき、ワークショップも経験できてとても新鮮でした。
- ・自分自身「考える」事から離れたので本日のワークショップでは自分の考えを言語化することができました。
- ・SECI について、野中郁次郎のイノベーションの定義が助かりました。
- ・グループの人とは共同作業できましたが、他のみなさんともお話してみたかったです。

コード別集計結果

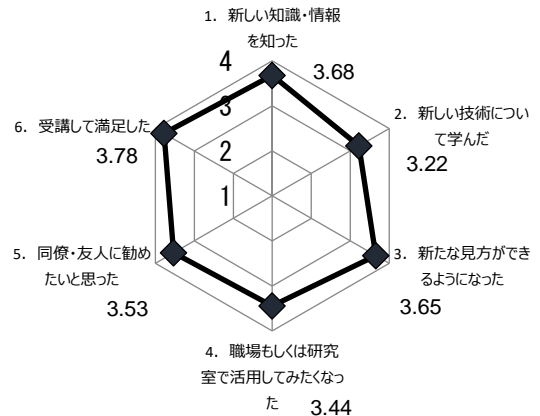
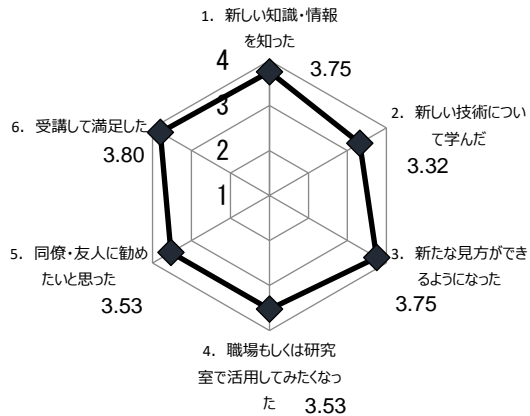
高等教育のリテラシー形成関連 (コード:L)

専門教育での指導力形成関連 (コード:S)



学生支援力形成関連 (コード:W)

マネジメント力形成関連 (コード:M)



全体



4.4 PDOnline (専門性開発プログラム動画配信サイト) 一覧

(2020年3月末時点)

	セミナー名	講師 (所属は講演当時, 敬称略)
1	Managing internationalisation: The priorities of the University of Melbourne	Richard James (メルボルン大学)
2	Finding Common Ground: enhancing interaction between domestic and international students	Sophie Arkoudis(メルボルン大学)
3	研究と実践のインタラクション: 大規模学生調査研究と大学IRコンソーシアム	山田礼子 (同志社大学)
4	学術分野の男女共同参画とポジティブ・アクションの課題—憲法学研究者としての歩みにふれて	辻村みよ子 (東北大学)
5	Designing Your Courses for More Significant Learning	Dee Fink (高等教育コンサルタント)
6	大学教育論: 教養と専門の二項対立を越えて	小笠原正明 (北海道大学)
7	リーダーシップと意思決定	吉武博通 (筑波大学)
8	歴史から見た大学: 中世から現代まで	寺崎昌男 (立教大学)
9	認知科学と学習の原理・応用	佐伯胖 (信濃教育会教育研究所長, 東京大学名誉教授)
10	Ensuring Research Integrity in the Australian Context: Future Directions	Marc Fellman (豪ノートルダム大学)
11	データに基づく教学改革をどのように進めるか ～アセスメントの5ステップ～	山田剛史 (愛媛大学)
12	大学教育と青年期発達	鈴木敏明 (東北大学)
13	授業づくり: 準備と運営	邑本俊亮 (東北大学)
14	アカデミック・ライティングを指導する—現状の分析と指導法の提案—	井下千以子 (桜美林大学)
15	東北大学生の履修行動と学修成果	串本剛 (東北大学)
16	学修成果測定をめぐる国際動向	杉本和弘 (東北大学)
17	人文・社会科学における研究キャリア形成—現状と若干の提言	佐藤裕 (国際教養大学)
18	学習と教育の科学—認知理論から大学の授業改革を考える—	市川伸一 (東京大学)
19	Ethical Conduct in Research Supervision —Principles, Policies, and Procedures	Gabriele Lakomski (メルボルン大学)
20	学習効果を高めるICTの活用法 ~反転授業も含めた授業設計~	向後千春 (早稲田大学)
21	デジタル知識革命と大学の未来 ～ポスト・グーテンベルク時代の教育に向けて～	吉見俊哉 (東京大学)
22	発達障害学生支援の現状と法が求める合理的配慮	青野透 (金沢大学)
23	Transforming Classrooms for Active and Collaborative Learning	Andy Leger (クィーンズ大学)
24	学生が成長する環境とは何か —ポードーフリー大学の現実をふまえて—	葛城浩一 (香川大学)
25	学力形成と教育マネジメントの役割—金沢工業大学の実践—	西村秀雄 (金沢工業大学)
26	大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき21世紀の学士課程教育像	小笠原正明 (北海道大学名誉教授)
27	体育を通して見る人間教育	木原成一郎 (広島大学), 小林勝法 (文教大学), 大築立志 (東京大学), 浅井英典 (愛媛大学)
28	大学教員の役割とキャリアステージ	羽田貴史 (東北大学)
29	社会学における数理科学教育の現状と課題	盛山和夫 (関西学院大学)
30	大学における統計科学・データサイエンス教育の課題と展望	渡辺美智子 (慶應義塾大学)
31	外国人留学生の日本における就職支援の課題と企業の取り組み事例	田籠喜三 (株式会社TAGS)

32	Academic Leadership and Current Challenges in Higher Education: an Australian Perspective	Peter McPhee (メルボルン大学)
33	Leadership Foundation for Higher Education (UK)	Doug Parkin (Leadership Foundation for Higher Education)
34	Curriculum Reform in Australian Universities: Management for Internationalization	Peter McPhee (メルボルン大学)
35	Classroom English: Pronunciation	Vincent Scura (東北大学)
36	データを活用した教育改善へのステップ	鳥居朋子, 川那部隆司 (立命館大学)
37	私立大学のガバナンスの課題と展望 ー地方中・小私学の可能性を考える	合田隆史 (尚絅学院大学)
38	国立大学のガバナンスとリーダーシップ	吉武博通 (筑波大学)
39	世界の高等教育政策	杉本和弘 (東北大学)
40	大学職員の専門性開発 ーその現状と課題ー	大場淳 (広島大学)
41	大学カリキュラムの構造と編成原理	吉田文 (早稲田大学)
42	発表倫理を考える	山崎茂明 (愛知承徳大学)
43	研究評価の手法とマネジメント	林隆之 (大学改革支援・学位授与機構)
44	インストラクショナルデザインへの誘い	鈴木克明 (熊本大学)
45	コーチング技能を活用した院生指導	出江紳一 (東北大学)
46	グローバル化する高等教育における国際化戦略・政策・実践	太田浩 (一橋大学)
47	国民の数量的リテラシーに求められるもの ー科学技術立国を支える基盤	桑原輝隆 (政策研究大学院大学)
48	イノベーション人材育成に資する数学教員養成の在り方	根上生也 (横浜国立大学)
49	聴覚・視覚障害学生の体育授業における配慮と工夫	栗原浩一 (筑波技術大学)
50	障害学生の発達の課題と支援のあり方	石原保志 (筑波技術大学)
51	発達障害を含む精神障害のある学生への合理的配慮と相談支援のあり方について	長友周悟 (東北大学)
52	聴覚障害学生の語学授業の配慮と課題	須藤正彦 (筑波技術大学)
53	聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスの理念に基づく授業環境の整備	石原保志, 宮城愛美, 宇都野康子 (筑波技術大学)
54	授業デザインとシラバス作成	串本剛 (東北大学)
55	[HEIJ フォーラム・基調講演]大学教職員の力量向上と役割の高度化	篠田道夫 (桜美林大学)
56	[HEIJ フォーラム・専門家会議]各国の高等教育における教職員の能力開発と組織開発	高野篤子 (大正大学), 大森不二雄 (東北大学), 杉本和弘 (東北大学), 大場淳 (広島大学)
57	[HEIJ キックオフシンポ・報告集]大学教育イノベーションに向けた3つの取組	日向野幹也 (早稲田大学), 竹内比呂也 (千葉大学), 佛淵孝夫 (佐賀大学)
58	[HEIJ キックオフシンポ・基調講演]これからの働き方と今後の教育のあり方	柳川範之 (東京大学)
59	「しまった !!」とならないために ーICT時代の教育で押さえておきたい法ー	三石大, 金谷吉成 (東北大学)
60	Engaging Students in Learning in English-medium Classes	Todd Enslin (東北大学)
61	Leadership to Internationalize Higher Education and its Institutions	John K. Hudzik (Michigan State University)
62	大学生のクリティカルシンキングの育成	楠見孝 (京都大学)
63	学生理解と学生発達	岡田有司 (東北大学)
64	課題を考える ー大学教育の課題とデータサイエンス学部の挑戦	竹村彰通 (滋賀大学)

65	[SDP シリーズ第 1 回]経営支援に向けた IR 情報のマネジメント	森雅生 (東京工業大学)
66	[SDP シリーズ第 1 回]内部質保証を学習成果につなげる道標	大森不二雄 (東北大学)
67	[SDP シリーズ第 1 回]教学ガバナンスのあり方とそれを支えるアカデミック・リーダーの育成	杉本和弘 (東北大学)
68	私立大学のガバナンス ～事例にみるその多様性と可能性～	大森昭生 (共愛学園前橋国際大学)
69	[HEIJ・第 2 回フォーラム]これからの大学に求められるマネジメント・組織開発	吉武博通 (首都大学東京)
70	[HEIJ・第 2 回フォーラム]ファカルティディベロッパー (FDer) に求められる専門性	佐藤浩章 (大阪大学)
71	科学教育を科学的に変革する: 学生が学習する授業は人気教授の名講義に勝る	Steven Pollock (University of Colorado Boulder)
72	実践から語る-大学数学教育の現状と未来へのデザイン	水町龍一 (湘南工科大学)
73	[SDP シリーズ第 2 回]リスクマネジメントとしての研究倫理の取り組み	羽田貴史 (東北大学)
74	[SDP シリーズ第 2 回]現代社会における科学技術イノベーション政策の動向と課題	小林信一 (放送大学)
75	組織のパフォーマンスを向上させるマネジメント	藤本雅彦 (東北大学)
76	研究政策と知的財産戦略-大学における研究成果の取扱い-	玉井克哉 (東京大学)
77	IR による教学データの活用手法	浅野茂 (山形大学)
78	ラーニング・アナリティクスの可能性	緒方広明 (京都大学)
79	大学における教育と学習の評価	木村拓也 (九州大学)
80	発達障害学生の学びとキャリア: 「入口」「真ん中」「出口」の支援	田澤実 (法政大学)
81	世界における高等教育の質保証の到達点と課題	深堀聰子 (国立教育政策研究所)
82	[SDP シリーズ③2018]第 3 期認証評価にどう対応するか-内部質保証の重点項目化の意味-	土屋俊 (大学改革支援・学位授与機構), 工藤潤 (大学基準協会), 伊藤敏弘 (日本高等教育評価機構)
83	国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革-カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組-	Carl Wieman (Stanford University)
84	国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革-カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組-	Martyn Kingsbury (Imperial College London)
85	学びのユニバーサルデザイン (UDL) で幅広い教育ニーズに対応できる講義を	川俣智路 (北海道教育大学教職大学院)
86	エンrollment・マネジメントをどのように捉え、どのように進めるか	髙田敏行 (茨城大学)
87	[HEIJ・第 3 回フォーラム] AI 時代の大学教育はどうあるべきか	中島秀之 (札幌市立大学)
88	[HEIJ・第 3 回フォーラム] 人間の知性は、AI とどう異なり、どう育てるべきか	鈴木宏昭 (青山学院大学)
99	大学の使命と社会~私のビジョン~	宮内孝久 (神田外語大学)
90	大学の使命と社会~私のビジョン~政策の視点、地方私学の視点から	合田隆史 (尚絅学院大学)

4.5 プログラム修了者数（2010～2019 年度）

年度	PFFP ¹⁾		NFP ²⁾		TLP ³⁾ ※	
	フルコース	ショートコース	フルコース	ショートコース	教員	職員
2010	13	-	-	-	-	-
2011	15	-	3	-	11	0
2012	6	-	6	-	4	3
2013	9	-	2	-	4	4
2014	5	-	3	-		
2015	4	4	6	6	7	2
2016	3	4	3	18		
2017	7	-	14	-	3	4
2018	3	-	18	-		
2019	3	-	14	-	(2020 年度までの 2 か年プログラム)	
合計	68	8	69	24	29	13
総計	76		93		42	

1) 大学教員準備プログラム (Preparing Future Faculty Program: PFFP)

2) 新任教員プログラム (New Faculty Program: NFP)

3) 大学変革リーダー育成プログラム (Transformational Leadership Program in Higher Education: TLP)

※2011・2012 年度は、各1年間のパイロット版プログラム (大学教育マネジメント人材育成プログラム (Educational Management Leadership Program: EMLP))。2013 年度より2か年の履修証明プログラム化、2013～2015 年度は EMLP、2016～2018 年度より「アカデミック・リーダー育成プログラム (LAD)」に改編、2019～2020 年度は TLP として提供。